

UNIVERSAL AUDIO



AMP TOP BOX

ユーザーマニュアル

Universal Audio / 株式会社フックアップ



HOOK UP, INC.

イントロダクション

この度は、Universal Audio Ox Amp Top Box をお求め頂き、誠にありがとうございます。

OX は、Universal Audio の先進的な技術を用いたハードウェアと洗練されたソフトウェアの融合によるプレミアムなロードボックスです。お気に入りのギターアンプの旨味を最大限に引き出し、プロのレコーディングエンジニアによる絶妙なマイクポジションによるサウンドをお届けします。加えて無償のソフトウェアアプリを使用すれば、シンプルな操作でそのサウンドをお好みのものに仕上げることも可能です。隣人との騒音トラブルを気にすることなく、また大きなサイレントキャビネットを用意することもなく、常にアンプの性能をフルに引き出したベストサウンドが得られる OX は、日本の住宅事情においても最適なレコーディング・ソリューションとなるでしょう。

Universal Audio / 株式会社フックアップ

免責事項

Universal Audio および株式会社フックアップは、可能な限り本マニュアルに記載しているすべての情報を信頼できるものとして記載することに努めていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本マニュアルの記載内容は予告なく変更が加えられる場合があります旨をご了承下さい。Universal Audio および株式会社フックアップは、現地法律による請求なしに本マニュアルにおける責務を拡張しません。なお、本マニュアルは、製造者の同意なく、いかなる場合においても形式を問わず、そのすべてあるいは一部を転載、複製することはできません。

株式会社フックアップ

東京都台東区上野 1-2-2 信井ビル別館 3F

Universal Audio 製品に関する詳細または最新情報はウェブサイトに記載しております：

<http://hookup.co.jp/products/universalaudio/index.html>

ライセンス規約

以下、Universal Audio のハードウェアとソフトウェアをご利用頂くためのライセンス規約となります。インストール前にご確認下さい。

- Universal Audio 製品のライセンスは、シングルユーザーライセンスとなります。
- 製品のすべての機能をご利用頂くには、Universal Audio 社のお客様のアカウント内への製品登録と専用ソフトウェアのインストールが必要です。
- ソフトウェアの入手と製品登録を行うにはインターネット接続が必要です。
- 製品のインストールとアクティベーションを行なった場合、本ライセンス規約に同意したことになります。
- 本規約にご同意頂けない場合はすべてのインストールと登録作業を中止し、弊社サポートまでご連絡下さい。



目次

イントロダクション	2
免責事項	2
ライセンス規約	2
安全にご利用頂くためのガイドライン	4
メンテナンスについて	4
OXの登録とソフトウェアダウンロード	5
クイックスタート	8
セットアップ手順	10
アンプとスピーカーの接続	11
出力接続	12
コントロールノブ	13
操作に関するメモ	13
コントロールと接続	14
OXソフトウェア	20
機能と装備	20
コントロールアプリのコンセプト	21
RIG (リグ) ビュー	23
プリセット管理、読み込みと保存	25
エフェクトエディター	29
ASSIGN (アサイン) ビュー	30
Rigの本体ノブへの割り当て	31
SETTINGS (セッティング) ビュー	32
Rig、キャビネット、マイク設定に関して	33
デフォルトのRigコントロールとキャビネット/マイクプリセット	33
デフォルトのRigセット	33
キャビネットマイクروفオン	36
ルームマイクروفオン	37
OXシステム概要	38
OXとWi-Fi ネットワーク	42
OX Wi-Fiホットスポット	42
外部のWi-Fiネットワーク	42
製品仕様	43
ブロック図	44
トラブルシューティング	45

安全にご利用頂くためのガイドライン

安全にご利用頂くために以下の事項を熟読の上、従って下さい！

電気機器を正しく扱う際の注意点です。人体や機器の損傷を防ぐための注意点でもあります。

- 本製品は屋内使用するために設計されています。湿気の無い環境でご利用下さい。
- スイミングプールの近くや浴室など湿度の高い場所では使用しないで下さい。
- 極端に汚れた環境やホコリの多い場所では使用しないで下さい。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご使用は避けて下さい。
- 機器の排熱に十分注意して下さい。パワーアンプ、ラジエーターなど熱源となる箇所から遠ざけてご利用下さい。
- 機器に極端な振動を与えないで下さい。
- 長期間使用しない場合は、機器の接続を外しておいて下さい。
- コップなど液体を含んだ物体を機器の上、あるいはその近くに置かないようにして下さい。
- 不用/不明物が本体内に混入していないことをご確認の上、使用して下さい。不用/不明物の混入を発見した場合、電源を切り、接続を外し、お近くの取扱店あるいは弊社に修理をご依頼下さい。

本製品は、アンプ、スピーカーまたはヘッドフォンと接続して使用します。場合によっては聴力に害を及ぼすほどの大音量を発することがあります。常に適切な音量調節を心掛けて下さい。

重要な注意事項

出力 150 ワット (RMS) を超えるアンプでは OX を使用しないでください。

OX のインピーダンス設定は、必ずギターアンプとスピーカーに合致するように設定して下さい。

真空管アンプのスイートスポットは必ずしもフル出力設定であるとは限りません。最良の設定を見つけることで、良いサウンドが得られるのと同時にパワー管の寿命を損なわずに済みます。

想定外、あるいは目的を逸脱した使用方法によって発生した機器損傷は保証規定の範囲を超えたこととなります。また、Universal Audio および株式会社フックアップはそのような使用による事故、損害に対する責務は負いかねますことをあらかじめご理解下さい。

メンテナンスについて

- 修理に関するすべての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをご使用下さい。
- クリーニング用の化学物は外装に損傷を与える可能性があります。ご使用はお控え下さい。

同梱物

OXのパッケージには以下のものが含まれています：

- OX Amp Top Box 本体
- 専用パワーサプライと電源ケーブル
- クイックスタートガイド
- 保証書

同梱物が不足している、もしくは異常があると思われる場合は、販売店または弊社まですみやかにご連絡下さい。

登録とソフトウェアのダウンロード

OXはハードウェア本体のみでも使用可能ですが、OXソフトウェア/アプリを使用することで、より細かな設定と操作が可能です。OXソフトウェア/アプリを利用するには、OXハードウェアをUniversal Audio社ウェブサイトにて製品登録する必要があります。登録の際にはインターネット接続可能なWi-Fiネットワーク環境が必須となります。

メモ：すぐにOXをご利用になりたい方は、[クイックスタート](#)をご覧ください。

メモ：OXの登録は一度のみです。登録時には、OXソフトウェア/アプリを使用してOXのネットワーク設定を制御し、OXを外部Wi-Fiネットワークに接続します。OXハードウェアとOXソフトウェア/アプリの両方が外部Wi-Fiネットワークに同時に接続されると、自動的に登録が行われます。

登録概要

OXの登録概要は以下の通りです。実際の手順は次のページに記載しています。

1. MacまたはiPadからOXソフトウェアをダウンロードし、開きます。
2. OXソフトウェア/アプリを実行するデバイスとOXのWi-Fiホットスポットをペアにします。
3. OXをインターネットに接続された外部Wi-Fiネットワークに接続します。
4. OXソフトウェア/アプリを実行するデバイスをOXと同じ外部Wi-Fiネットワークにペアリングします。
5. OXソフトウェア/アプリを開き、登録を完了してください。アプリがUAアカウントの作成から登録までをガイドします。OXの登録はインターネット接続を通じ自動的に完了します。

登録手順

以下の手順でOXの登録を行います。

メモ:以下の解説で表記される"OXアプリデバイス"とは、OXソフトウェア/アプリを動かすためのMacもしくはiPadのことを指します。

OXの登録

1. OXソフトウェア/アプリをダウンロードします。

- macOS: コンピューター版のOXソフトウェアの入手は、www.uaudio.com/ox/app にアクセスします。OXが初めてのUniversal Audio製品であれば、"Create an account"をクリック(タップ)し、アカウントを取得します。
- iPad: iPad版のOXアプリの入手は、iOS App Storeを開き、検索で"OX Amp Top Box"を入力します。

2. OXアプリデバイスをOXのWi-Fiホットスポットとペアリングします。

(ギターアンプと接続していない状態で)OXの電源を入れ、OXアプリデバイス(Mac/iPad)のWi-Fiネットワーク設定を開き、OXリアパネルのラベルに印字されたホットスポットを選択し、パスワードを入力します。

メモ:このWi-Fi設定はデバイス(Mac/iPad)のシステム設定です。OXソフトウェア/アプリの設定ではありません。



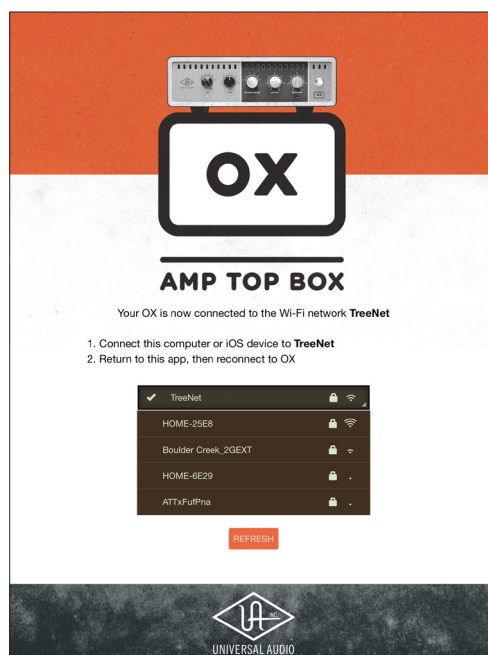
OXのホットスポット名とパスワードが印字されたラベル
(図例のホットスポット名とパスワードは例で、実際は一台一台異なります。)

3. OXを外部のWi-Fiネットワークに繋がります。

OXソフトウェア/アプリを開き、必要に応じて画面内の"Find My OX"をクリックし、インターネット接続に接続可能な既存のWi-Fiネットワークを一覧から選んでパスワードを入力し、OKボタンをクリック(タップ)します。

メモ:ここで入力するパスワードは既存のWi-Fiネットワークのパスワードで、OXホットスポットのパスワードではありません。

外部WiFiネットワークに接続している状態のOXアプリ画面



4. OXアプリデバイスをOXと同じ外部のWi-Fiネットワークに繋がります。

OXが外部のWi-Fiネットワークに接続されたら、OXアプリデバイス (Mac/iPad)のWi-Fiに関するシステム設定に移動し、OXのホットスポットから手順3で選んだ既存のWi-Fiネットワークへと接続し直します。

5. OXソフトウェア/アプリを開いて登録を完了します。

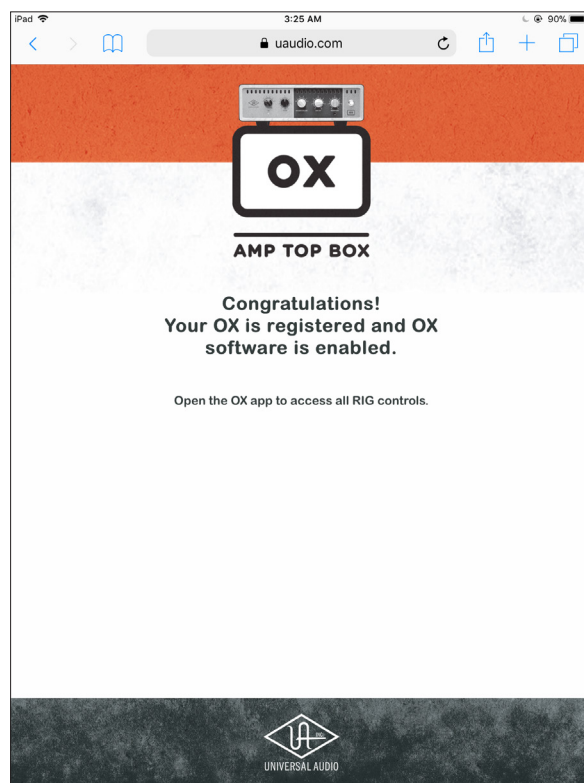
OXソフトウェア/アプリを一度閉じ、再度開くとウェブブラウザが開き、OXの登録ページにアクセスします。

OXが初めてのUniversal Audio製品であれば、"Create an account"をクリック(タップ)し、アカウントを取得します。

既に別のUniversal Audio製品をお持ちでアカウント取得済みの方はログインします。

アカウントにログイン後、自動でOXが登録されます。

登録が完了後、以下の確認ページが表示されます。再度、OXソフトウェア/アプリに切り替え、必要に応じて"Find My OX"をクリック(タップ)すると、全てのOXコントロールパラメーターにアクセスできるようになります。



登録完了画面

クイックスタート

この章では、OXを使い始めるための簡単な手順を説明します。

OXとは？

OXは、レコーディング業界において高い実績を誇るUniversal Audioの先進的な技術を用いたハードウェアと洗練されたソフトウェアの融合によるプレミアムなロードボックスです。お気に入りのギターアンプの旨味を最大限に引き出し、プロのレコーディングエンジニアによる絶妙なマイクポジションによる実戦的なサウンドがすぐにお楽しみいただけます。

OXは、世界最高水準のロードボックスであり、完成されたレコーディングシステムです。一般的なロードボックスはアナログ機器であり、単にギターアンプのスピーカー出力を下げる、あるいはスピーカーの出力をミュートしてラインレベルの信号をミキサーやオーディオインターフェイスなどの録音機器に送ります。しかし、それを市販の音楽で耳にできるような素晴らしいサウンドになるよう仕上げるにはさらに様々な機器やテクニック - しっかりと調整されたスタジオ環境や、優れたマイク、およびその周辺機器、そして経験と技術が必要です。OXはレコーディング史が始まった時代からのスタジオ運営から機器の供給に至るまで、Universal Audioの長年に渡り蓄積してきた経験と技術、ベストサウンドへの飽くなき探求が注ぎ込まれた集大成とも言えるツールであり、現代的な解釈で考えられた最高のソリューションのひとつです。

OXをギターアンプに繋ぎ、ノブを捻るだけで、トップエンジニアによる「仕上がった」ギターサウンドにすぐに到達できます。

OXの利点

OXを用いることで以下の恩恵が得られます：

- 場所を問わず、お気に入りのギターアンプの旨味を最大限に引き出し、そのサウンドで演奏や録音が可能
- RIGノブ一つで素晴らしいマイクとギターキャビネットの組み合わせを得る - 実際のマイキングは不要
- MacまたはiPadを介し、設定を直感的かつ詳細にカスタマイズ
- 極限状態におけるスピーカーの挙動やコーン・クライまでも再現する UA のダイナミック・スピーカー・モデリング技術により、アンプ本来のトーンをあまさず奏でる
- フロントパネルにヘッドフォン端子、リアパネルには様々なレコーディングオプションに適したアナログバランス出力、同軸RCAやオプティカルTOSLINK経由のS/PDIFデジタル出力を用意
- レコーディングのみならず、ライブ用途にも最適

ダイナミックスピーカーモデリング

Universal Audio の革新的なダイナミック・スピーカー・モデリングは、本物のチューブアンプのトーンに欠かせない成分であるスピーカーのブレイクアップ、ドライブ、コーンクライをエミュレートします。OXソフトウェアの "SPEAKER DRIVE" ノブでは実際のスピーカーキャビネットで起きる現象と同様に、さまざまなスピーカーにおいて特定の周波数や音量レベルによって生じるハーモニクスや複雑な影響を扱うことができます - これは静的なインパルス・レスポンスのシステムをはるかに超えるものです。

Wi-Fi接続によるコントロール

詳細にOXを操作するために、コンピューターと物理的な結線を行う必要はありません。OXは内蔵されたWi-Fi機能により、ワイヤレスでMacまたはiPadから操作することが可能です。OX本体にはお気に入りのRig設定を最大6つまで保存することができるので、ノブ操作一つですぐに切り替えることも可能です。



接続の際の重要な注意点



誤った接続/操作を行うと、アンプ、OX、およびOXに接続された他の機器が恒久的に損傷する可能性があります。Universal Audioならびに株式会社フックアップは、不適切なOXの接続および操作に起因する機器の損傷についていかなる責任も負いません。OXを接続/使用する前にこの章の重要な情報を確認してください。

真空管アンプに関する注意

真空管アンプをお使いになれる際は、OXまたはスピーカーを必ず接続して下さい。何も接続せずに稼働させた場合、パワー管のみならず、真空管アンプの出力部に修理できない恒久的な損傷を与える可能性があります。また、スピーカー出力をギタースピーカーあるいはOXに接続/接続解除する際は必ずアンプの電源を切った状態で行って下さい。

OXの赤色の入力端子 (FROM AMPLIFIRE)

OXの赤色の入力端子 (FROM AMPLIFIRE) は、アンプのスピーカー出力のみを接続することができます。他の出力を接続しないで下さい。同様に、アンプのスピーカー出力を他の入力端子に接続しないで下さい。

OXのスピーカー出力 (TO SPEAKER)

OXのスピーカー出力端子 (TO SPEAKER) は、ギタースピーカーキャビネットのみが接続可能です。他の機器を接続しないで下さい。

アンプの出力

OXは、出力150W (RMS) までのギターアンプで使用できるように設計されています。出力が150W以下のギターアンプでお使い下さい。真空管アンプのスイートスポットは必ずしもフル出力設定であるとは限りません。試行錯誤し、最良の設定を見つけて下さい。

スピーカーケーブルはしっかり挿入して下さい

ギターアンプとOX、OXとスピーカーキャビネットの接続は1/4"標準フォーン端子のスピーカーケーブルを使い、プラグを差込口にしっかり最後まで挿入するようにして下さい。これによって正しく機能するだけでなく、機器の損傷を防ぎます。

スピーカーケーブルについて

ギターアンプとOX、OXとスピーカーキャビネットの接続には、高品質な12~16ゲージのシールドされていない1/4"モノラルTS (チップスリーブ) スピーカーケーブルのみを使用して下さい。

スピーカーケーブルは一般的なラインケーブルではなく、電源ケーブルと同等のものをご理解の上、扱って下さい。

スピーカーの耐入力

スピーカーの損傷を避けるため、OXに接続されたアンプの出力電力よりも低い耐入力のスピーカーキャビネットは使用しないで下さい。

インピーダンス設定

OXのインピーダンス (IMPEDANCE) 設定は、接続するアンプと合致させて下さい。例えば、アンプの設定が8Ωの場合、あるいは8Ω出力端子を用いる場合、OXも8Ωに設定します。また、スピーカーキャビネットも同じ使用のものをご利用下さい。

ソリッドステート仕様のアンプ

ソリッドステートアンプ (真空管のないアンプ) でのOXの使用は推奨されておらず、サポートされていません。OXは真空管アンプのみで使用するように設計、最適化が行われています。

セットアップ手順



セットアップ前に、必ず前項の注意点をご確認下さい。

OXと真空管アンプの接続手順は以下の通りです：



重要：アンプの電源を切った状態で接続を行って下さい！

1. ギターアンプの電源がオフであることを確認します。
2. OX付属のパワーサプライをOXリアパネルの電源差込口と電源コンセントに繋ぎます。
3. OXリアパネルのIMPEDANCEノブをアンプのスピーカー出力のインピーダンスに設定します。アンプのスピーカー出力インピーダンスが不明の場合、ひとまず8Ωに設定します。
4. 1/4"標準フォーン仕様のスピーカーケーブルで、ギターアンプのスピーカー出力とOXリアパネルの**赤色の入力端子** (FROM AMPLIFIRE) を繋ぎます。
5. OXのSPEAKER VOLUME、LINE OUTとHEADPHONEノブを"0"ポジションにします。
6. OXの出力を任意の機器の入力と接続します。
7. OXリアパネルのPOWERスイッチをオンにしてから、アンプの電源を投入します。

これでOXは使用可能になります。お好みのサウンドになるようにアンプとOXのツマミを調整します。

重要：アンプの音量が十分でなかったり、OXのSPEAKER VOLUMEノブが予期せぬ動作 (例えばLINE/MONの出力やOXアプリの信号レベルが変化したり、スピーカーから出る音量変化がスムーズではない等) をした場合、アンプとOXの電源を切り、アンプのスピーカー出力がOXリアパネルのTO SPEAKERではなく、**赤色の入力端子** (FROM AMPLIFIRE) と確実に接続されているかをご確認下さい。

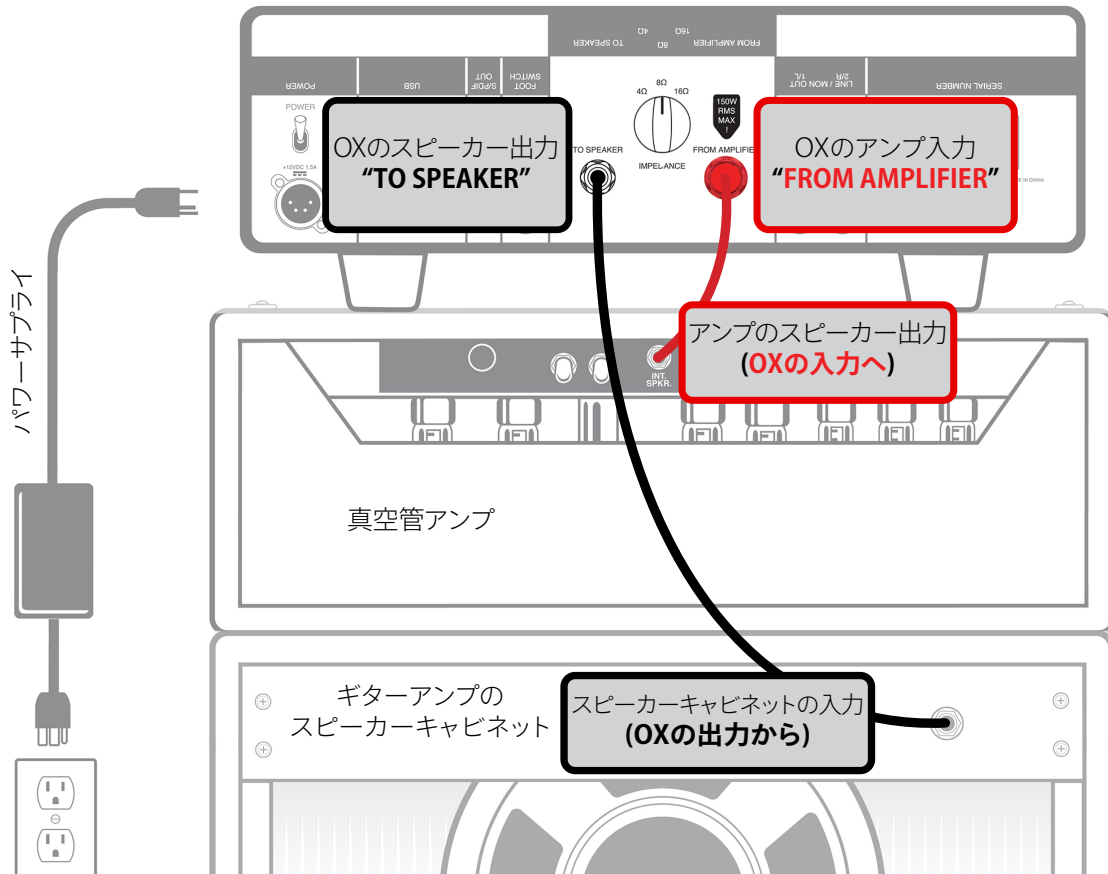
メモ

- Rig Controlのキャビネットとマイクプリセットは[Rig](#)、[キャビネット](#)、[マイク設定に関して](#)の章に記載しています。
- OXを稼働させるには専用のパワーサプライが必要です。必ず付属のものをご利用下さい。

アンプとスピーカーの接続



重要:アンプの電源を切った状態で接続を行って下さい!



スピーカーケーブルでOXとギターアンプとスピーカーキャビネットの間に繋がります

アンプとスピーカー接続に関するメモ

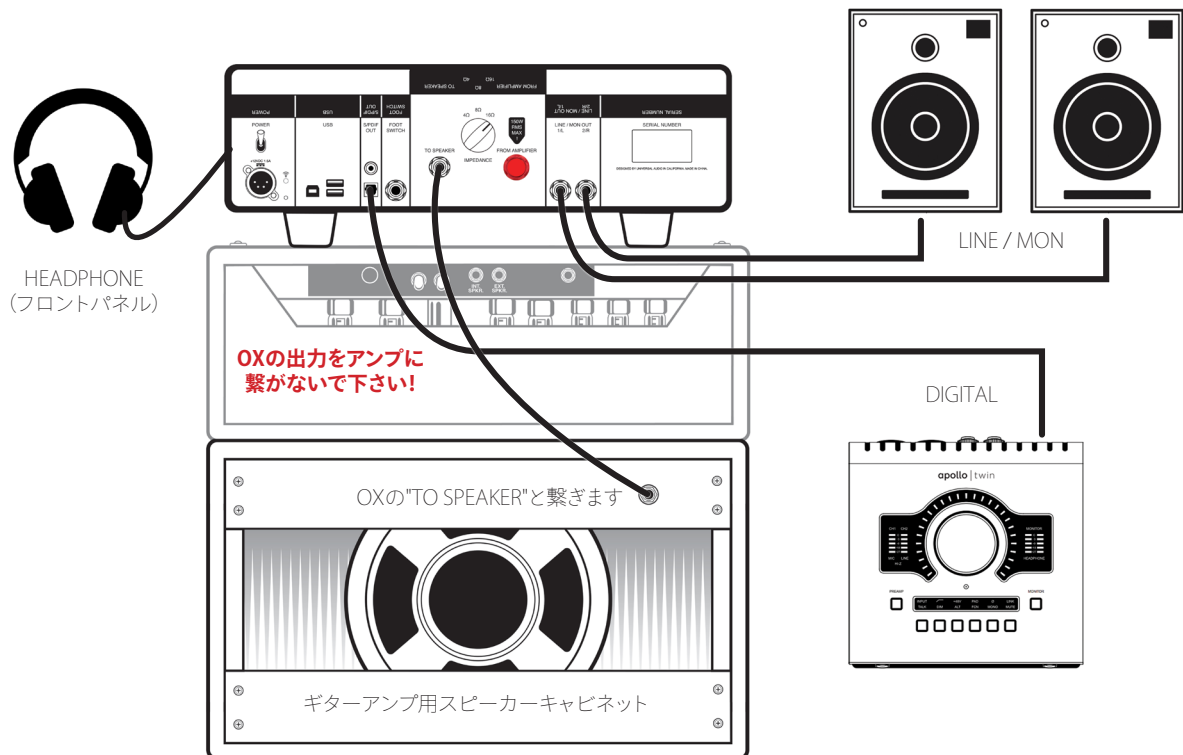


重要:聴力と機器の保護のため、OXとアンプ、スピーカーの接続手順はこのガイドの内容に従って下さい。

- 1/4"標準フォーンプラグの高品位スピーカーケーブルを使用して、アンプとOXのFROM AMPLIFIER、OXのTO SPEAKERとスピーカーキャビネットの入力を接続します。(推奨ゲージ12~16)
- コンボタイプ(スピーカー一体型)アンプの場合、アンプに接続されたスピーカーケーブルを外して、OXリアパネルのTO SPEAKERに繋がります。(ケーブルがOXの設置場所に届かない場合、延長ケーブルを別途ご用意下さい。)
- 延長ケーブルをご用意する場合も必ずスピーカーケーブルをご利用下さい。
- アンプに複数のスピーカー出力が装備されている際、1つの出力のみをご利用下さい。(片方をOX、もう片方をスピーカーキャビネットに接続することは、アンプの出力段にダメージを与える原因になりますので、ご遠慮下さい。)
- 複数のスピーカー出力で、"USE FIRST"や"MAIN"などの指定がある場合は、それに従い接続をします。
- アンプ、OX、スピーカーのインピーダンス(Ω)が合致していることをご確認下さい。
- OXは真空管アンプとベストマッチになるよう設計されています。ソリッドステート(トランジスタ)アンプはもちろんのこと、プリ部に真空管を使用している場合、出力段に真空管を使用していないギターアンプとの組み合わせは推奨されており、サポートされていません。

出力接続

メモ:OXの出力に関しては必ずしも接続が必要ではありません。必要に応じてご利用下さい。



OXに装備された各出力の接続例

(この図例ではアンプとOXの接続は省略されています)

ギターアンプ用スピーカーキャビネット

1/4"標準フォンプラグのスピーカーケーブルを使用して、OXのTO SPEAKERとスピーカーキャビネットを接続します。

ライン/モニター出力

OXリアパネルのLINE/MON出力とモニタースピーカー、オーディオインターフェイス、あるいはミキサーなどのラインレベル入力を接続します。ケーブルは接続機器に合わせて1/4"アンバランスまたはバランス仕様のラインケーブルを使用します。スピーカーケーブルは不適切です。

ヘッドフォン出力

OXを通したRigサウンドをヘッドフォンでモニターする場合、フロントパネルのHEADPHONE端子に標準ステレオフォンのヘッドフォンを繋ぎます。

デジタル出力

デジタル接続によって、OXのサウンドをよりダイレクトかつノイズに影響され難い状態でレコーダーやオーディオインターフェイスに送ることが可能です。OXのデジタル出力はステレオのデジタル信号の転送に一般的なS/PDIF規格に準じており、光角形(TOSLINK)と同軸コアキシャル(RCA)出力の両方を装備します。これら2つのデジタル出力は同時使用可能です。

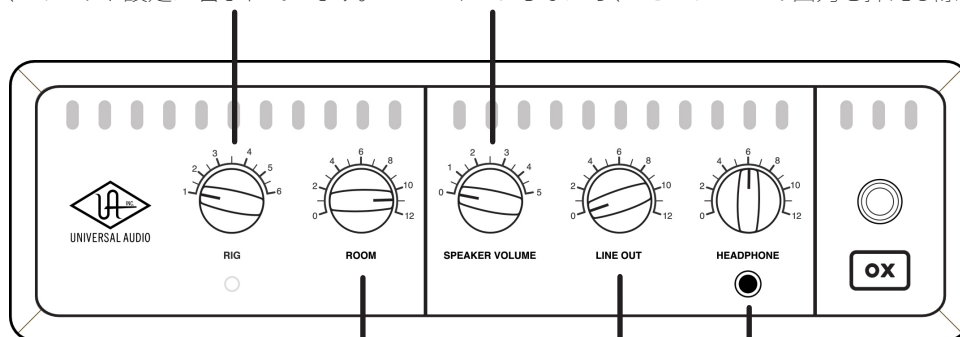
コントロールノブ

RIG (リグ)

ギターサウンドを決定付けるプリセットを6つの選択肢から選びます。Rigにはキャビネットとマイク、エフェクト設定が含まれています。

SPEAKER VOLUME (スピーカーボリューム)

OXに繋がれたスピーカーキャビネットの音量を設定します。"0"に設定するとサイレントオペレーションになります。アンプの出力をキープしながら、スピーカーへの出力を抑える際に使用します。



ROOM (ルーム)

スタジオのアンビエントマイク (エアー感) を調節します。

LINE OUT (ラインアウト)

OXのステレオ出力: LINE/MONの信号レベルを設定します。

HEADPHONE (ヘッドフォン)

ステレオヘッドフォン出力の音量を設定します。

メモ: ギタースピーカーの音量は、アンプのパワーと出力インピーダンス、ギタースピーカーのインピーダンス、OXリアパネルのIMPEDANCEノブの全体的な組み合わせによって決まります。

操作に関するメモ

メモ: OXのノブと各端子の詳細については、コントロールと接続の章に記載しています。

- RIGとROOMノブの設定は、OXのSPEAKER VOLUMEには影響しません。TO SPEAKER出力の信号は、デジタル処理されていない、FROM AMPLIFIREに入力されたピュアなアナログアンプトーンです。
- Rigプリセットを切り替えた場合、HEADPHONE、LINE/MONおよびDIGITAL出力の音量が大きく変化することがあります。RIGノブもしくはOXソフトウェアの設定を変更する際、突然に大音量にご注意下さい。
- DIGITAL出力の音量レベルは、OXソフトウェアで調整できます。

無料のOXソフトウェアでご自身のRig設定のカスタマイズと保存が可能です

OXには無料のコントロールソフトウェアが付属します。製品登録後、macOSまたはiPadアプリを入手可能です。OXをワイヤレスで操作し、ご自身だけのRig設定が保存可能です。OXソフトウェアの詳細については、OXソフトウェアの章に記載しています。

OXソフトウェアの入手方法

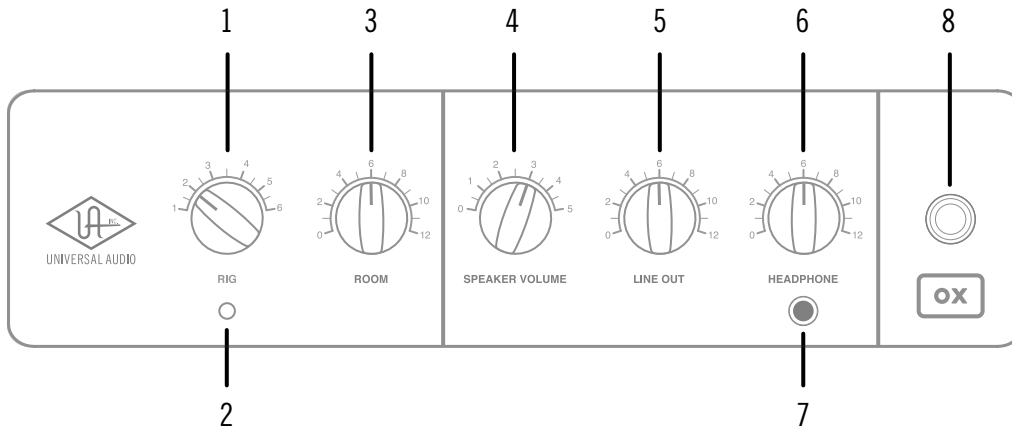
- macOSの場合、www.uaudio.com/ox/appにアクセスします。
- iPadの場合、iOSのApp Storeで、検索画面を開き、"OX Amp Top Box"と入力します。

コントロールと接続

メモ: OXとアンプ、スピーカーキャビネットとの接続に関する重要な情報は[クイックスタート](#)の章に記載しています。まだお読みになられていない場合は必ずご確認ください。

フロントパネル

OXのフロントパネルは以下の通りです：



OXのフロントパネル

1. RIG (リグ)

6段階のコントロールノブで、Rigと呼ばれるプリセットの選択に使用します。

RIGは、キャビネット、マイク、ルームとエフェクト設定を含んだプリセットで、HEADPHONE、LINE/MON、S/PDIF出力で耳にする音色を決定付けます。OX本体では6つまでのRigを保持することが可能です。工場出荷時のRigプリセットは、[デフォルトRig](#) [コントロールとキャビネット/マイクプリセット](#)の項目に記載しています。

TO SPEAKER出力からは、(OXのデジタル回路で処理されていない)アンプのダイレクトなサウンドが出力されます。よって、Rigを切り替えても音が変わることはありません。

メモ: RigはOXソフトウェア/アプリでカスタマイズ可能です。Mac/iPadを介した操作により、Rigプリセットを快適にエディット、保存、読み込みを行うことが可能です。

2. RIG LED (リグインジケータ)

RIGインジケータは、Rigの状況を以下の通りに示します。

メモ: LEDの状態が下表にない場合、お手数ですが、テクニカルサポートまでご連絡下さい。

RIG LEDの状況	意味	内容
オフ	電源オフ	リアパネルの電源スイッチがオフ、あるいはパワーサプライが正しく接続されていないことを示します。
緑(点灯)	RIGが保存されている状態	現在OXで選択されているRigが保存時の状態のままであることを示します。
黄(点灯)	RIG設定に変更あり	現在OXで選択されているRigのROOM設定、あるいはOXソフトウェアで他のパラメータを操作した状態で、まだ保存されていないことを示します。
黄(点滅)	ファームウェアアップデート	OXのファームウェアを更新中であることを示します。
緑(点滅)	Wi-Fi設定の初期化待ち	RESETスイッチを再度10秒間押して、Wi-Fiリセットを実行します。
赤(点滅)	ファクトリーリセット待ち	RESETスイッチを再度10秒間押して、OXを工場出荷時の状態に戻します。

3. ROOM (ルーム)

ROOMノブではスタジオのルームアンビエンスと空気感を捉えるマイクの音量を調整します。ノブを上げると、ルームアンビエンス(部屋の鳴り)が加えられ、下げるとよりダイレクトなクローズドマイクのトーンになります。

ROOMノブを操作するとRIG LEDが緑から黄色に変化し、保存されていた状態と設定が変わったことを示します。

ROOMの変更は、HEADPHONE、LINE/MON、S/PDIF出力で耳にできる音色に作用します。

TO SPEAKER出力からは、(OXのデジタル回路で処理されていない)アンプのダイレクトなサウンドが出力されます。よって、RIGを切り替えても音が変わることはありません。

メモ:ROOMに関する設定は、OXソフトウェアでカスタマイズと保存が可能です。

4. SPEAKER VOLUME (スピーカーボリューム)

このノブはOXリアパネルのTO SPEAKER出力に接続されたギタースピーカーの音量調整に使用します。OXに入ってくるギターアンプからの出力はこのコントロールでアッテネートされ、スピーカーへと送られます。このノブは6ポジションのコントロールで、その内5ポジションが出力アッテネートの設定になります。

ポジション1が最小の出力レベルポジションで、ポジション5では最もラウドな状態になります。ポジション0はスピーカーオフとなり、いわゆるサイレントモードで動作することとなります。

SPEAKER VOLUME設定はアナログアッテネーターで、TO SPEAKER出力のみに作用します。デジタルセクションのHEADPHONE、LINE/MON、S/PDIF出力の音量には影響しません。

メモ:ギタースピーカーの音量は、アンプのパワーと出力インピーダンス、ギタースピーカーのインピーダンス、OXリアパネルのIMPEDANCEノブの全体的な組み合わせによって決まります。

5. LINE OUT (ラインアウト)

OXリアパネルのLINE/MON出力の音量を調整します。このノブ操作で、HEADPHONE、S/PDIFおよびTO SPEAKER出力の音量に影響を与えることはありません。

ノブを左一杯の"0"ポジションにした際、LINE/MON出力はミュートされます。

6. HEADPHONE (ヘッドフォン)

OXフロントパネルのHEADPHONE出力の音量を調整します。このノブ操作で、LINE/MON、S/PDIFおよびTO SPEAKER出力の音量に影響を与えることはありません。

ノブを左一杯の"0"ポジションにした際、HEADPHONE出力はミュートされます。

7. HEADPHONE出力 (ヘッドフォンジャック)

1/4"標準ステレオフィोन仕様のヘッドフォンを接続するための端子です。前述のHEADPHONEノブで音量調整を行います。

注意:RIGの設定やプリセットを変更すると、ヘッドフォンの出力レベルが急に大きくなる場合があります。意図しない大音量から耳を保護するため、HEADPHONE出力を高くした状態でRIG切り替えやOXソフトウェアを操作する場合は十分ご注意ください。

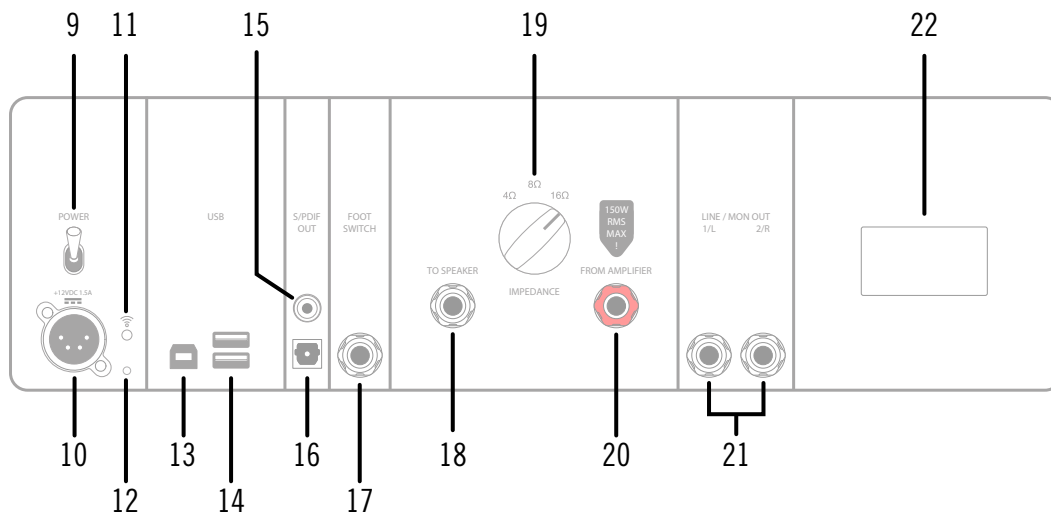
8. POWER (パワーランプ)

OXの電源投入に応じた動作確認ランプです。電源オン時に点灯し、オフの際は消灯します。

注意:OXの出力は電源が投入され、システムが完全に起動してから有効になります(起動中は非アクティブとなります)。

リアパネル

OXのリアパネルは以下の通りです：



OXのリアパネル

9. POWER (パワースイッチ)

OXの電源オン/オフを行います。電源コネクター (10) に専用のパワーサプライが適切に接続されていることを確認します。

注意: OXはアクティブユニットです。出力を有効にするには、電源を投入します。

電源が投入されると、フロントパネルのPOWERランプとRIG LEDが点灯します。電源投入後、OXのシステムが起動し、正常稼働まで少し時間を要します。それまで出力はミュートされます。システムの起動終了後、出力が有効になります。

メモ: アンプを保護するため、OXは電源がオフの時でも16Ωの負荷をFROM AMPLIFIER入力に課します。ただしこれは一時的な保護機能であり、一般利用のための機能ではありませんので、ご注意ください。

10. 電源入力

OXに電源を供給するためのパワーサプライを接続するソケットです。



注意: 専用のパワーサプライのみをご利用下さい。

OX専用のパワーサプライを接続するためのXLR 4ピン仕様の差込口です。OXは12VDC電源で動作します。消費電力は18Wです。

パワーサプライのもう片側はIEC規格のソケットで、一般的なIEC仕様のACケーブルでコンセントに繋がります。

メモ: 不用意な電源ショックや機器保護のために、電源ソケットはしっかりと差し込んで下さい。また、IECケーブルはご利用地域の規格や法令に準じたものをご利用下さい。

11. Wi-Fi Status LED (WiFiインジケータ)

Wi-Fiインジケータは、OX内蔵のWi-Fi機能の状況を以下の通り示します。

メモ: LEDの状態が下表にない場合、お手数ですが、テクニカルサポートまでご連絡下さい。

WiFi LEDの状況	意味	内容
オフ	接続なし	OX内蔵のWi-Fiホットスポットとつながっている機器がない、あるいはOXが外部のWi-Fiネットワークとつながっていないことを示します。
青(点灯)	ホットスポット接続状態	OXとデバイスが内蔵のWi-Fiホットスポットでつながっていることを示します。
緑(点灯)	ネットワーク接続状態	OXが外部のWi-Fiネットワークとつながっていることを示します。
緑(点滅)	外部ネットワークに接続中	OXソフトウェアを通じ、外部のWi-Fiネットワークにつながろうとしている状態です。

12. RESET (リセットスイッチ)

この小さなプッシュスイッチは、OXのWi-Fi設定のリセットやOXを工場出荷時の状態に戻す際に使用します。詳細と操作方法は、[トラブルシューティング](#)の章の該当項目に記載しています。

メモ: 通常使用において、RESETスイッチを使うことはありません。

13. USBポート (Type-B)

現段階ではこのポートは機能しません。

14. USBポート (Type-A)

現段階ではこのポートは機能しません。

S/PDIF OUT (デジタル出力)

S/PDIFデジタル出力は、OXで処理されたステレオ信号をオーディオインターフェイスまたはデジタルレコーダーのデジタル入力へと送ります。

デジタル出力の音声は、アナログのLINE/MON、HEADPHONE出力と同じものですが、OX本体で音量調整を行うことはできません。通常、デジタル信号は音量調整の必要はありませんが、必要に応じてOXソフトウェアで設定することが可能です。

OXには、同軸と光形式の2つのデジタル出力が装備されていますが、出力信号の内容は同一で、同時使用が可能です。

メモ: OXのデジタル出力サンプルレートは44.1kHz固定です。

ヒント: Universal Audio Apolloのように、S/PDIF入力にサンプリングレート変換機能を装備している機器であれば、DAWプロジェクトのサンプリングレートを気にせずにOXのデジタル出力を接続することが可能です。

15. 同軸(コアキシャル) デジタル出力

同軸デジタルケーブル用のS/PDIFデジタル出力です。75Ωの同軸線、RCA端子のデジタルケーブルを使用します。

ヒント: Universal Audioのオーディオインターフェイス: Apollo FirewireやApollo 8とOXをデジタルで結線する場合はこのコネクタを使用します。

メモ: 同軸デジタル転送は、コアキシャルと呼ばれることもあります。また、フォーマット名のS/PDIFがそのまま用いられることもあります。

16. 光(オプティカル) デジタル出力

光デジタルケーブル用のS/PDIFデジタル出力です。光角形(TOSLINK)コネクタのオプティカルケーブルを使用します。

ヒント: Universal Audioのオーディオインターフェイス: Apollo Twinシリーズ、Apollo 8pなどと結線する場合はこのコネクタを使用します。

注意: 光角形コネクタを採用する多くの機器は、S/PDIFとadatの2つのデジタルフォーマットに対応します。OXを接続する際は、機器のコネクタがS/PDIFモードで稼働していることをご確認下さい。

17. FOOT SWITCH (フットスイッチ)

現段階ではこのポートは機能しません。

18. TO SPEAKER (スピーカー出力)



注意:この出力は、ギターアンプのスピーカー出力と同じ高出力仕様です。一般的なライン機器:スタジオモニター、ミキサー、オーディオインターフェイスの入力とは接続しないで下さい。

注意:この出力はギターアンプの用のスピーカーキャビネット専用です。PAスピーカーなどを接続しないで下さい。

注意:ここに接続するスピーカーキャビネットは、OXに接続されたギターアンプの出力に耐えられる仕様のもをお使い下さい。

重要:接続には1/4"フォーンプラグ仕様の高品質のスピーカーケーブル(推奨ゲージ12~16)をご利用下さい。一般的なギターシールドやラインケーブルはお使いいただけません。ギターシールドやラインケーブルを使用した場合、機器の損傷だけではなく重大な事故の原因となる可能性がありますので、十分にご注意下さい。

OXにパワーアンプ機能はありません。TO SPEAKER出力からは、OXのリアアクティブ・ロードによってアッテネート(パワー・ソーキング)されたギター・アンプのスピーカー信号が出力されます。OXのフロントパネルのSPEAKER VOLUMEノブは、この出力のラウドネスをコントロールします。ポジション"0"の場合、TO SPEAKERへの出力はミュートされ、サイレントモードで扱うことが可能です。

メモ:OXのRIGコントロールがこの出力からのサウンドに影響を与えることはありません。

注意:予期しない突然の大音量の発生を防止するため、ギタースピーカーキャビネットを接続する際は、OXのSPEAKER VOLUMEノブとアンプの音量を下げてから行って下さい。

19. IMPEDANCE (インピーダンス)

OXの抵抗値を設定するノブです。OXと接続するギターアンプのスピーカー出力の抵抗値と合わせます。一般的なギターアンプの場合、4、8、16Ωのいずれかになりますので、IMPEDANCEノブをそれに合わせます。

メモ:ギターアンプのスピーカー出力のインピーダンスがご不明な場合は、8Ωに設定しておきます。ギターアンプ側に複数のインピーダンス設定が存在する場合、実際にお試しの上、最もサウンドが良いと感じたインピーダンス設定でご利用下さい。

20. FROM AMPLIFIRE (アンプ入力)



注意:アンプとOXを保護するために、以下の事項を厳守して下さい。

電源を切る:OXとギターアンプを接続する際は必ず電源を切った状態で行って下さい。

OXまたはスピーカーを必ず接続した状態で使用する:真空管アンプは出力をスピーカー、あるいはそれに相当する機器 (OX) に接続した状態でお使い下さい。

プラグは最後までしっかり挿し込む:スピーカーケーブルは確実に接続して下さい。アンプにダメージを与えないために、プラグは最後までしっかり挿し込みましょう。

アンプの出力は150Wまで:OXと接続可能なアンプの出力は150Wまでになります。

この**赤色の入力端子**は、ギターアンプのスピーカー出力と接続します。この信号はデジタル処理されることなく、OXのTO SPEAKERへ送られます。

重要:接続には1/4"フォーンプラグ仕様の高品質のスピーカーケーブル (推奨ゲージ12~16) をお使い下さい。一般的なギターシールドやラインケーブルは使用できません。ギターシールドやラインケーブルを使用した場合、機器の損傷だけでなく事故の原因になる可能性がありますので、十分にご注意下さい。

メモ:アンプを保護するため、OXは電源がオフの時でも16Ωの負荷をFROM AMPILIFIRE入力に課します。ただしこれは一時的な保護機能であり、一般利用のための機能ではありませんので、ご注意ください。

21. LINE / MON (ライン/モニター出力)

左右2つのLINE/MON出力は、OXでデジタル処理されたサウンドをアナログラインレベルの信号として出力します。

2つの出力は1/4"標準フォーンプラグのラインケーブルで、スタジオモニターやオーディオインターフェイスのアナログライン入力と接続します。接続はアンバランス (TSフォーン) とバランス (TRSフォーン) の両方に対応します。

出力音量はフロントパネルのLINE OUTノブで調整可能です。"0"に設定した場合、LINE / MON出力はミュートになります。

メモ:接続には、シールドされたライン (もしくはギター) ケーブルをご利用下さい。スピーカーケーブルは使用できません。

22. Wi-Fi アドレス

このラベルにはOX内蔵のWi-Fiネットワークのホットスポット名 (SSID) とパスワードが印字されています。OXソフトウェア (Mac/iPad) 経由でOX本体を操作/設定する場合、SSIDとパスワードを入力します。

メモ:OXには一台一台、異なるホットスポット名とパスワードが用意されています。

メモ:OXのホットスポット名とパスワードは、OXソフトウェアで変更可能です。

OXソフトウェア

OXには専用のコントロールソフトウェアが無償で含まれます。OXソフトウェア/アプリはMacもしくはiPadで扱うことが可能で、ご利用頂くにはOXの製品登録が必要です。

macOSバージョンでもiPadバージョンでも使い方に違いはありません。

メモ:このマニュアルではOXソフトウェアと表記したり、OXアプリ、あるいはOXソフトウェア/アプリと記載することがありますが、特定の環境を指していることはなく、同じ意味で使われています。

OXソフトウェア/アプリは、WiFiネットワークを通じてOXの設定を変更し、Rigとして保存することができます。全ての設定にアクセスし、ほぼ無限に等しいバリエーションのギタートーンを得ることが可能です。さらに、アルバムクオリティを誇る100種のデフォルトRigへOXソフトウェア/アプリからアクセスすることができ、お好みのものをOX本体に6つまで保存/呼び出しを行うことが可能です。

OXソフトウェア/アプリは、Mac/iPadがOXハードウェアに内蔵されたWi-Fiホットスポットを通じて、あるいは同じWi-Fiネットワークに繋がっていることで操作可能になります。

OXソフトウェアの機能と特徴

- Wi-Fiネットワークを通じたMac/iPadを介し、OX Amp Top Boxをワイヤレスでフルコントロール
- 100種を超えるアルバムクオリティのギタートーンを提供するRigプリセット
- 17種の定番スピーカーキャビネットとビンテージ、モダンおよび特別なスピーカーからお好みのものをチョイス可能
- 幅広いマイクチョイス:ダイレクトマイクに7種のブティックマイク、ルームマイクに6つのコンビネーション
- OXハードウェア単独使用時のRIG設定の管理、設定、作成と保存
- トーンの仕上げに必要な不可欠なEQ、コンプレッサー、ディレイとプレートリバーブをコントロール

OXソフトウェア/アプリのシステム条件

- OX Amp Top Box
- MacまたはiPad
 - macOSバージョン: macOS SierraまたはHigh Sierraで動作するPC
 - iPadバージョン: iOS 11で動作するiPad
- インターネット接続可能なWiFiネットワーク(登録時、一度のみ)

OXソフトウェア/アプリの入手方法

- macOS: コンピューター版のOXソフトウェアの入手は、www.uaudio.com/ox/app にアクセスします。
- iPad: iPad版のOXアプリの入手は、iOS App Storeを開き、検索で"OX Amp Top Box"を入力します。

OXソフトウェアのコンセプト

ここでは、OXソフトウェア/アプリに関しての理解を深めて頂くためのキーコンセプトについて解説します。同様の解説は、OXシステム概要とOX Wi-Fiネットワークの章にも記載していますので、あわせてご確認頂くことで、このソフトウェアのほとんどについて学ぶことができます。

OXのリモートコントロール

OXソフトウェア/アプリは、OXハードウェアに秘められたパラメーターにフルアクセスするワイヤレスリモートコントローラーです。ソフトウェア画面上のパラメーターや設定は、OXハードウェアの中身を映し出しているものと言えます。

OXソフトウェア/アプリは、OXハードウェアのデジタル部をコントロールします。よって、ピュアアナログであるOXのSPEAKER VOLUME設定に関しては、コントロールや保存を行うことはできません。

メモ:OXの音声信号処理(ダイナミクスピーカー/ルームモデリング、マイクミキシング、EQ、マスターエフェクト他)は、すべてOXハードウェアが行なっています。OXソフトウェア/アプリ自体は音声処理を行いません。

全てがOXハードウェアの中に保存されます

OXに関する全てのデータ(ユーザーのRigプリセット、Rigセット、エフェクトプリセット、割り当て、ネットワークおよびシステム設定)はOX本体に保存されます。つまり、OXのデータはコンピューターやiPad上に保存されることはありません。

メモ:OXソフトウェア/アプリを削除してもOXハードウェア上に保持された情報に影響を与えることはありません。

現在の状態を保持します

OXは電源オフ時に、それまでの状態を保持します。再び電源をオンにした際、電源オフ時の状態から扱うことが可能です。この設定には、Wi-Fiネットワークとシステム設定、そしてRIGノブの割り当ても含まれます。

これにより、OXソフトウェアの有無に関わらず、常に直前に操作した状態から始められることを意味します。

例えば、お気に入りのRigをRIGノブに割り当てたとします。その設定は電源をオフにし、後日起動した際でも電源を切った時の状態でOXが起動します。

メモ:Rigを変更してもOXの電源を入れ直した時にまだ保存されていない場合、RIG LEDはオレンジ色で、Rigが電源オフ前と同じ変更状態にあることを示します。

ファクトリー設定

OXには、100のファクトリーRigプリセットが用意され、どれもアルバムクオリティのギタートーンのために作成されたものです。その内6つをOX本体のRIGノブで選択可能で、残りは、OXソフトウェアからアクセスします。

ファクトリープリセットはオリジナルのRig設定の開始点としても有用です。

Rigプリセットの読み込み方法は、ファクトリープリセットでもユーザープリセットでも同じです。

メモ:ファクトリーRigへのアクセス方法は、項目:プリセットの読み込みに記載しています。

画面

OXソフトウェアには3つの画面：RIG、ASSIGN、SETTINGSが用意されています。各画面の主な機能は次の通りです：

RIG (リグ) - Rig設定、つまりOXのサウンドを決定付けるパラメーター操作を行う画面です。また、ここでは、RIGプリセットの管理も行います。

ASSIGN (アサイン) - 個々のRigやRigセットをOX本体のRIGノブに割り当てる際の画面です。

SETTINGS (セッティング) - OXのWi-Fiネットワークやシステム全体の設定に関する画面です。また、Universal AudioのOXに関するテクニカルサポートのナレッジベース (英文) にアクセスすることも可能です。

画面の切り替え

画面の切り替えは、ソフトウェアの上端右側で行います。

メモ：表示されている画面名は黄色で表示されます。



RIGビューが選択されている状態

用語

この章ではいくつかの用語が使われています：

OX (オックス) - 特別な解説がない限り、OXハードウェア本体のことを指します。

APP (アプリ) - OXソフトウェアのことです。

Rig (リグ) - ギタートーンを形成する設定 (プリセット) のことです。

Rig Set (リグセット) - OXのRIGノブに割り当てる6つのRIGコレクションです。

Effect (エフェクト) - OXに内蔵された4つのエフェクトプロセッサー (EQ、コンプレッサー、ディレイ、リバーブ) のことです。

Preset (プリセット) - 保存された設定のことです。OXにはRigプリセットとエフェクトプリセットが存在します。プリセットは、[プリセットマネージャー](#)を通じて読み込み、保存、および名称変更が可能です。

RIGビュー

全てのRig設定はこのRIGビューで調整されます。Rigの音色に影響を与える全ての設定がこのビューに含まれています。個々のRigプリセットもこのビュー内で管理されます。

ここでは60以上のパラメーターが用意され、ギターアンプのサウンドをお好みのものに上げていきます。

画面に表示された設定

RIGビューで表示される全ての設定は、OXフロントパネル上の現在選択されているRIGの状態を反映したものです。RIGノブの選択を変更したり、ROOMつまみを調整すると、Rigビューの設定も更新され、新しい設定が反映されます。

メモ: RIGビューは純粋に現在のOXの設定を表示するものです。



一般的な設定のRIGビュー

Rigエディット

RIGビュー上の全てのパラメーターと設定は常にアクティブな状態です。画面上の設定を変更すると、それに従ってOXのサウンドが変化します。

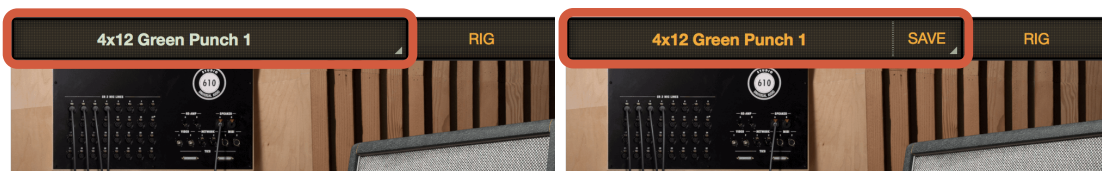
サウンドに関する設定は、スピーカーキャビネット、2つの(クローズド)キャビネットマイク、ステレオルームマイク、4つのマスターエフェクト、個々のマイクチャンネル(マイクのオフ軸、ローカット、マイクEQ、パン、ソロ、ミュートとチャンネルフェーダー)そしてマスターフェーダーがあります。

設定を変更したRigは、ユーザープリセットとして保存可能です。詳細と手順は[プリセット保存](#)の項目に記載しています。

重要:変更したRig設定を保存しないまま別のRigに切り替えると、それまでの設定は失われます。お気に入りの設定はすぐにRigプリセットとして保存するようにしましょう。

保存値、変更値?

- Rigの設定に変更がなく、プリセットとして保存されているままの状態である場合、Rigビュー上のプリセット名は白字で表示されます。それと同時にOX本体のRIG LEDは緑色で点灯します。
- OXソフトウェアでRig設定を操作、もしくはOXフロントパネルのROOMノブを操作した場合、Rigビュー上のプリセット名とOXフロントパネルのRIG LEDは黄色に点灯し、パラメーターが変更され未保存の状態であることを示します。また、OXソフトウェアのプリセット名右端にプリセット保存を行うための"SAVE"ボタンが表示されます。



OXソフトウェアの表示: 設定が保存状態のプリセット(左)、パラメーターに変更が加えられ、未保存の状態(右)

INPUT LEVEL(入力レベル)

INPUT LEVELスイッチは、真空管アンプの出力をOXのプロセッサーに入力するレベルを設定します。このスイッチ操作によって、真空管アンプの出力がOXのダイナミックスピーカーモデリングに対し最適なレベルとなるようにします。

設定のガイドラインは以下の通りです:

- アンプの出力が50W以下の場合、INPUT LEVELを"50W"に設定します。
- アンプの出力が50W以上の場合、INPUT LEVELを"100W"に設定します。

この設定はあくまでも基準です。100W設定で音量不足を感じた場合は50W、あるいは逆に50Wでは大き過ぎると感じた場合は100Wに設定するなど、お試しください。

INPUT LEVELを100Wのアンプで50Wに設定しても、5Wのアンプで100Wに設定しても、心配する必要はありません。OXは常に確かな入力レベルで処理するように設計されています。

SPEAKER DRIVE(スピーカードライブ)

SPEAKER DRIVEは、スピーカーキャビネットのダイナミックレスポンスを調整します。このユニークで強力なコントロールは、OXのダイナミックスピーカーモデリングのさまざまな側面を調整します。

設定が低い場合、スピーカーは新品時に近い特性になります。タイトで太く、パンチとボトムエンドがしっかりしたサウンドです。ノブを上げていくとより柔らかくスポンジータンサウンドになり、経年変化したスピーカーに近い特性になります。高い設定ではスピーカーがより強くプッシュされるため、低音の崩壊と高音の濁りで、極限状態の様がより明白になります。新しいスピーカーの高音はしっかり出ているのに対して、寿命を終えようとしているスピーカーは弱く、ルーズで暗く、特定のノートやキャビネットとの組み合わせで特徴的なコーンクライ(サブオクターブ音)が発生します。

マスターフェーダーと出力メーター

RIGビュー右下端のフェーダーはOXのステレオ出力全体の音量を決定付けるマスターレベルを設定します。フェーダー右横のメーターはその出力レベルを表示します。

OXのデジタル出力の最大ボリュームは、出力レベルメーターの"0"ポジション(フルデジタルスケール)になります。メーター上端のLEDが赤色に点灯した場合、デジタル出力でクリップしていることを示します。OXのデジタル出力を使用する場合、メーターのクリップインジケーターが点かないようにマスターフェーダーを調整して下さい。

メモ:Rigを新規作成する場合、OXのデジタル出力がクリップしないよう最大値以下で音量を調整しましょう。

プリセット管理

プリセットとは、OXの一連の設定を保存したものです。OXにはRigプリセットとエフェクトプリセットが存在し、いずれもOX本体に保存されます。エフェクトプリセットには、キャビネット/ルームマイクのEQプリセットとマスターエフェクトのプリセットがあります。OXのプリセットの保存、読み込み、名称変更は、[プリセットマネージャー](#)で行います。

プリセットコンテンツ

- Rigプリセットには、全てのマイクEQとエフェクトの設定を含む、Rigの全設定が含まれます。EQとエフェクトの設定はRigとは別に保存する必要はありません。
- エフェクトプリセットには、個々のエフェクト(EQ、コンプレッサー、ディレイ、リバース)の全設定が含まれています。Rig内のエフェクトの設定全てを一括して保存するには、Rigを保存します。

プリセットの種類

ファクトリープリセット (Factory Preset)

OXには100種のファクトリーRigプリセットと、豊富かつ有用なファクトリーエフェクトプリセットが内蔵されています。ファクトリープリセットは変更可能ですが、上書き保存はできません。ファクトリープリセットを流用して作成した自前のRigプリセットはユーザープリセットとして保存可能です。

ファクトリープリセットはFACTORYフォルダーに格納されています。ファクトリープリセットから作成したプリセットは、ユーザーフォルダーに名前を付けて保存します。

ユーザープリセット (User Preset)

ユーザープリセットは作成、名称変更、削除が可能です。全てのRigまたはエフェクトプリセットは、ユーザープリセットとして保存することができます。ユーザープリセットは通常、USERフォルダーに保存されます。

パラメーターを操作するとプリセット名の横にSAVEボタンが表示され、ボタンを押すと設定が上書きされます。別のユーザープリセットとして保存をする場合、"SAVE AS"(プリセットマネージャーのポップアップから選択)で名前を付けて保存します。

重要:ユーザープリセットを削除すると復帰させることはできません。そのため、間違ってプリセットを削除しないように、プリセットを削除をする際に確認ダイアログが表示されます。

お気に入りプリセット (Favorite Preset)

ファクトリー、ユーザーに関わらず、お気に入りのプリセットはタグ付けすることが可能です。プリセットリストの"星"アイコンを押すことで、お気に入り(Favorite)プリセットとしてタグ付けされます。"星"アイコンを再度押すと、タグ付けが解除されます。

メモ:お気に入りプリセットはタグ付けされても元のフォルダーに置かれます。

プリセットフォルダー

通常、プリセットマネージャーには3つのフォルダー：FACTORY、FAVORITES、USERが設定されています。全てのプリセットはいずれかのフォルダーに保管されます。

- **FACTORY**フォルダーとファクトリープリセットは、名称変更も削除もできません。
- **FAVORITES**フォルダーも同様に名称変更と削除はできません。"星"アイコンでお気に入りのタグ付けがされたプリセットにアクセスします。
- **USER**フォルダーは名称変更、削除および作成が可能です。より効率の良いプリセット管理のために複数のユーザーフォルダーを作成することも可能です。

重要:ユーザーフォルダーを削除すると、内包されているプリセットも削除され、復帰することはできません。そのため、間違えて削除をしないよう実行前に確認のダイアログが表示されます。

プリセットマネージャー

プリセットマネージャーでは読み込み、保存、名称変更、削除およびお気に入りのタグ付けなどのプリセット管理を行います。プリセットマネージャーはRIGビューでポップアップ表示されます。プリセットの種類によってアクセス方法が異なります。

- **Rigプリセット** - RIGビュー左上のプリセット名の箇所を押すと表示されます。
- **エフェクトプリセット** - エフェクトエディターのプリセットの箇所を押すと表示されます。

メモ:プリセットマネージャーは開いたままで操作可能です。操作終了後、右上の"DONE"を押し、画面を閉じます。



画面例は、RIGプリセットマネージャーで、FAVORITESフォルダーにアクセスした状態です。

*鍵アイコンのフォルダーやプリセットはロックされていますので変更できません。

プリセット読み込み

重要:変更したRig設定を保存せずに別のRigに切り替えるとそれまでの設定が失われます。お気に入りの設定はすぐにRigプリセットとして保存するようにしましょう。

プリセットの読み込み手順

1. Rigまたはエフェクトプリセットマネージャーを開きます:

- **Rigプリセット** - RIGビュー左上のプリセット名の箇所を押すと表示されます。
- **エフェクトプリセット** - エフェクトエディターのプリセットの箇所を押すと表示されます。



Rigプリセットマネージャー (左) とエフェクトプリセットマネージャー (右)

3. ポップアップ表示の左欄でフォルダーを選択すると、その中のプリセットが右欄に表示されます。

メモ:必要に応じ、目的のプリセットにアクセスするために表示をスクロールします。

4. 右欄でプリセットを選択すると、そのプリセットが即座に適用されます。

メモ:プリセットマネージャーは開いたまま操作可能で、プリセットをオーディションする際に便利です。画面を閉じるには右上の"DONE"ボタンを押します。

プリセット保存

プリセットの保存は、ファクトリープリセットの変更からの保存と新規のユーザープリセットを作成しての変更では手順が異なります。必要に応じ、[プリセットマネージャー](#)の解説図を参考にします。

変更したファクトリープリセットの保存手順

1. ファクトリープリセットに変更を加えるとプリセット名の右横に"SAVE"ボタンが表示されます。これを押して下さい。



ファクトリーRigをエディットすると"SAVE"が表示されます

2. ポップアップ表示の左欄で保存先のユーザーフォルダーを選択します。新規ユーザーフォルダーを作成する場合は、左上の新規フォルダーアイコンボタンを押します。

3. "SAVE AS"ボタンを押して、新しいユーザープリセットとして名前を付けて保存します。

ユーザープリセットの上書き保存

プリセットの上書き保存はプリセット名の右横に表示された"SAVE"ボタンを押します。この操作によってプリセットマネージャーがポップアップ表示することなく、現在の設定が上書きされます。



ユーザーRigの上書き保存は、SAVEボタンを押すだけ

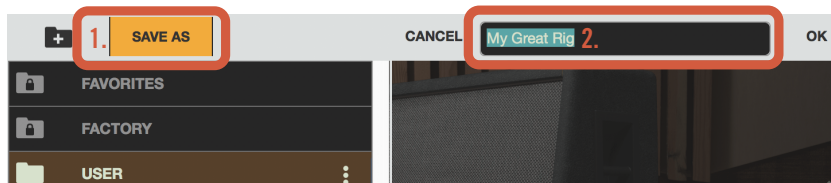
ユーザープリセットの別名保存手順 (SAVE AS)

1. プリセット名の右横に表示される"SAVE"ボタンではなく、プリセット名を押してプリセットマネージャーを開きます。



ユーザーRigの別名保存は、プリセット名の箇所を押します

2. ポップアップ表示の左欄で保存先のユーザーフォルダーを選択します。新規ユーザーフォルダーを作成する場合は、左上の新規フォルダーアイコンボタンを押します。
3. "SAVE AS"ボタンを押して、新しいユーザープリセットとして名前を付けて保存します。



SAVE ASを押すと、プリセット名の入力欄が表示されます

ユーザープリセットとユーザーフォルダーの名称変更と削除

ユーザープリセットとユーザーフォルダーは、名称変更と削除が可能です。プリセットマネージャーの欄の右端押すことで、名称変更 (RENAME) と削除 (DELETE) オプションが表示され、実行することが可能です。

重要:ユーザーフォルダーまたはプリセットを削除すると、復帰することはできません。そのため、間違っして削除をしないよう、実行前に確認ダイアログが表示されます。フォルダーを削除する場合は、そのフォルダー内のプリセットも同時に削除されます。ご注意ください。



オプションドットを押すことで、名称変更と削除オプションが表示されます

エフェクトエディター

エフェクトエディターは、個々のエフェクトプロセッサのコントロールパラメーターを扱う画面です。エフェクト名の箇所を押すことでポップアップ表示されます。

エフェクトプリセットは画面左上のプリセット名の箇所に表示され、押すことで[プリセットの管理](#)が可能です。

OXには4つのスタジオエフェクト - 4バンドEQ、1176 SEコンプレッサー、ステレオモジュレーションディレイとステレオプレートリバーブが装備されています。各エフェクトごとにプリセット保存が可能です。イコライザーには2つの操作モード：グラフィックとタッチが用意されています。

エフェクトエディター画面は以下の通りです：



OXの各種エフェクトエディター

ASSIGNビュー

個々のRigやRigセットをOX本体のRIGノブに割り当て際の画面です。

OXフロントパネルのRIGノブに設定されている6つのRIGを個々、あるいはセットとして一括で割り当てを行います。

画面表示は現在のOXハードウェアのRIG割り当てを反映したものです。

重要:RIGビューでエディットされ未保存状態のRigは、割り当て操作によって破棄されます。ASSIGNビューに移る前に、RIGビューでのエディットは保存しておきましょう。

RIGセット

Rigセットとは、個別の6つのRigの集まりです。OXは16のRigセットを備えています。各Rigセットごとに6つのRigの選択と、名称変更ができます。

16のRigセットにアクセスするには、ASSIGN画面左上の"< Rig Sets"をクリックします。

メモ:表示されたRigセットを押すと、そのRigセットが即座にOXのRIGノブに割り当てられます。

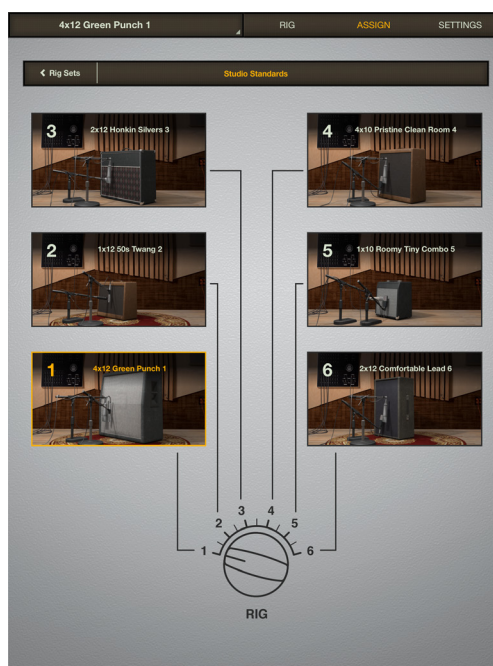
RIGスロット

OXのRIGノブの割り当てにあわせてOXソフトウェア画面には6つのスロットが表示され、現在のRIGノブに割り当てられているRigプリセットが表示されます。どのスロットにどのようなプリセットが割り当てられているのを視覚で捉えることが可能です。スロットの割り当てを変更すると、すぐにOXに反映されます。

RIGノブ

OXのRIGノブに応じた画面表示です。ノブのポジションに割り当てられたプリセットを確認します。

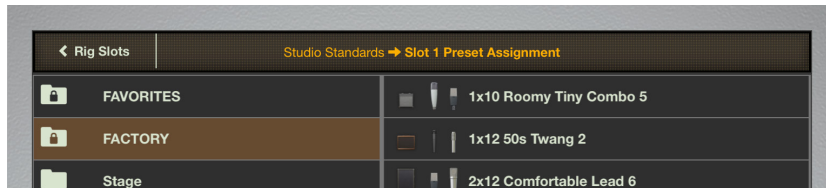
Rigプリセットの割り当ては画面上で行えます。OX本体のノブに触れる必要はありません。



OXソフトウェアのASSIGNビュー

個々のRigプリセットをRIGノブに割り当て

1. ASSIGNビューで、目的のRigスロットのRigを押すことで、Rigセクターが表示されます。

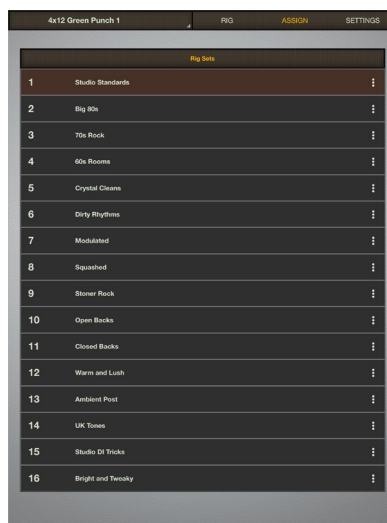


Rigスロットセクター - Rigスロットを押すことで表示されます

2. 目的のRigプリセットを選ぶと、そのプリセットがそのままそのスロットに割り当てられます。

RigセットのRIGノブへの割り当て

1. Assignビューで、"< Rig Sets"を押して、Rigセットリストを表示します。

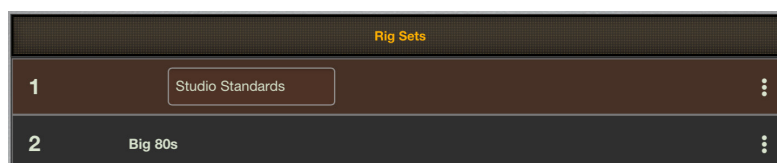
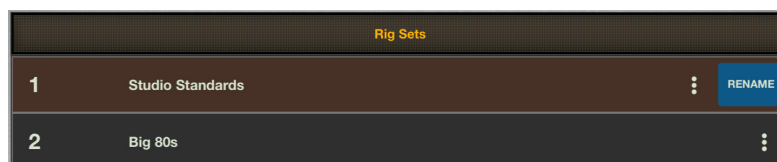


Rigセットリスト

2. 目的のRigセットを選ぶと、そのセットにある6つのRigプリセットがOX RIGノブの全スロットに割り当てられます。

Rigセットの名称変更

1. Rigセットリストで、セット名右端のドットオプションを押すと、RENAMEオプションが表示されます。
2. 画面上に新しいセット名を入力します。



Rigセットの名称変更

SETTINGSビュー

OXのWi-Fiネットワークやシステム全体の設定に関する画面です。また、Universal AudioのOXに関するテクニカルサポートのナレッジベース (英文) にアクセスすることも可能です。

System (システム) ビュー

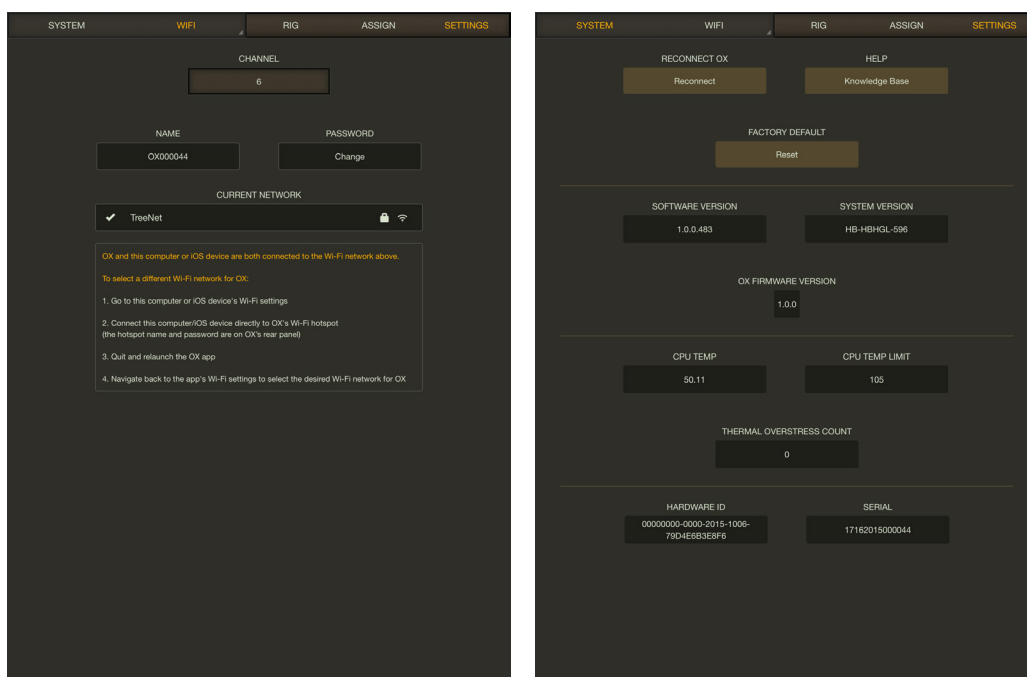
Universal AudioのOXに関するテクニカルサポートのナレッジベース (英文) へのリンクが含まれます。

Wi-Fiビュー

OXのWi-Fiネットワーク設定に関する画面です。主にOXを外部のWiFiネットワークと接続する際に利用します。

OXのWi-Fiネットワーク接続

OXを外部のWi-Fiネットワークと接続する手順は、[OX登録手順](#)の項目のステップ2~4に従います。



SETTINGSビュー

Rig、キャビネットとマイクに関して

この章では、OXのダイナミックスピーカーモデリングとダイナミックルームモデリングで用いられているギタースピーカーキャビネット、クローズキャビネットマイクとルームアンビエンスマイクに関する情報、そしてファクトリーのRigノブ設定とRigセットについて解説します。

デフォルトのRigコントロールプリセット

出荷時、OX本体のRIGノブには以下のRigプリセットが設定されています。この設定は、OXソフトウェアで変更可能です。

メモ: OXのパッケージにフルカラーのRIG Control Cab & Mic Presetのパンフレット (英文) が付属します。

[RIG Control Cab & Mic Presetパンフレット](#)はここからもダウンロード可能です。

RIG ノブ	RIG 名	キャビネット	クローズマイク	ルーム	マスターエフェクト
1	4x12 Green Punch	4x12 GB 25 PUNCH	Condenser 67 & Ribbon 121	Carpeted w/ Condenser Stereo Mics	なし
2	1x12 50s Twang	1x12 BLUE J	Dynamic 57 & Ribbon 121	Carpeted w/ Ribbon Stereo Mic	Plate Reverb
3	2x12 Honkin Silvers	2x12 ACE TOP	Ribbon 160 & Condenser 67	Live w/ Condenser Mono Mic	なし
4	4x10 Pristine Clean Room	4x10 BMAN	Condenser 414 & Condenser 67	Live w/ Condenser Stereo Mics	Plate Reverb
5	1x10 Roomy Tiny Combo	1x10 BLACK CHA	Dynamic 421 & Condenser 414	Live w/ Condenser Stereo Mics	なし
6	2x12 Comfortable Lead	2x12 BOUTIQUE D65	Condenser 414 & Condenser 67	Carpeted w/ Condenser Stereo Mics	Delay & Plate Reverb

デフォルトのRigセット

出荷時、OXに含まれるRigセットは以下の通りです。Rigセットはカスタマイズ可能で、名称変更やRIGノブへの割り当ても、OXソフトウェアのASSIGN画面を通じて行えます。

RIG セット名		RIG セット名	
1	Studio Standards	9	Stoner Rock
2	Big 80s	10	Open Backs
3	70s Rock	11	Closed Backs
4	60s Rooms	12	Warm and Lush
5	Crystal Cleans	13	Ambient Post
6	Dirty Rhythms	14	UK Tones
7	Modulated	15	Studio DI Tricks
8	Squashed	16	Bright and Tweaky

スピーカーキャビネット

OXソフトウェアで選択可能なダイナミックスピーカーモデリングとして17種のスピーカーキャビネットが用意されています。

1x10 Black Cha

10インチのビンテージスピーカーを装備した開放型の小型アンプキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のFとB周辺の倍音共鳴が発生します。

1x12 Blue J

12インチスピーカーを装備した開放型の50年代のアメリカンキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のE、A、BとC#周辺の音成分が付加されていきます。

1x12 GB25

12インチのドライブサウンドに適した"グリーン"25Wスピーカーを装備した開放型の50年代ブリティッシュキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のFとA周辺の音成分が付加されていきます。

1x12 Blu 15

12インチの15Wの"ブルー"スピーカーを装備した開放型キャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF、G#とC周辺の音成分が付加されていきます。

1x12 Black D-ux

12インチスピーカーを装備した開放型の60年代小型アンプキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF、G#とC周辺の音成分が付加されていきます。

1x12 Black GB30

12インチのよりドライブサウンドに適した"グリーン"30Bスピーカーを装備した開放型キャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のE、G#、BとC周辺の音成分が付加されていきます。

2x10 V-ux

10インチのスピーカーを2つ装備した60年代後半の開放型キャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF周辺の音成分が付加されていきます。

2x12 Two Verb

12インチビンテージスピーカーを2つ装備した開放型アメリカンアンプキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のAとC#周辺の音成分が付加されていきます。

2x12 Black 8H

80年代メタルプレイヤーに好まれた12インチの高出力対応の"Black"スピーカーを2つ装備したセミオープン型キャビネットです。アルミメッキされたスピーカーはどんなミックスにも合いやすいのが特徴です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のGとC周辺の音成分が付加されていきます。

2x12 Ace Top

12インチの"Silver"スピーカーを2つ装備した60年代中期の開放型ブリティッシュアンプキャビネットです。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のG#とC周辺の音成分が付加されていきます。

2x12 Boutique D65

12インチの65Wスピーカーを2つ装備したブリティッシュスタイルのカスタムキャビネットです。モダンブルースとロックプレイヤーに好まれるそのサウンドは、タイトなボトムとクリアさが特徴的です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF#とC#周辺の音成分が付加されていきます。

2x12 Alnico 50

12インチのアメリカ製アルニコ50Wスピーカーを2つ装備した密閉型のモダンキャビネットです。ハイゲインサウンドにおいて滑らかで歌うようなトーンが魅力です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF#、A#、BとC#周辺の音成分が付加されていきます。

4x10 Bman

10インチスピーカーを4つ装備した開放型キャビネットです。本来ベースギター用に設計されたものですが、ギターにも適することが発見され、そのまま定着したキャビネットです。適度に抉られた中域と存在感のあるサウンド特徴です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のC周辺の音成分が付加されていきます。

4x12 GB12 Thick

12インチのビンテージスピーカーを4つ装備した密閉型キャビネットです。オリジナルの25W"グリーン"スピーカーはロックギターサウンドの定番で、ベースとなったビンテージキャビネットはローミッドと低域の特性が特徴的です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF#、G#とC周辺の音成分が付加されていきます。

4x12 GB12 Punch

12インチのビンテージスピーカーを4つ装備した密閉型キャビネットです。オリジナルの25W"グリーン"スピーカーはロックギターサウンドの定番で、ベースとなったビンテージキャビネットは抉られた中域とタイトなサウンドが特徴です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF#、G#とC周辺の音成分が付加されていきます。

4x12 Super 80

12インチの80W"リード"スピーカーを4つ装備したカスタムキャビネットです。柔らかい高域とアグレッシブな中域が魅力です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のF、A#とC#周辺の音成分が付加されていきます。

4x12 White 75

12インチの75W"ホワイト/クリーム"ブリティッシュモダンスピーカーを4つ装備したカスタムキャビネットです。伸びやかな高域特性と存在感が特徴です。SPEAKER DRIVEを上げると、高音域のG#とC#周辺の音成分が付加されていきます。



キャビネットマイクロフォン

6種のキャビネットマイクとDIボックスはOXで用意された全てのスピーカーキャビネットで使用することができます。マイクロフォンの選択は、OXソフトウェアで行います。

ダイナミックスピーカーモデリングは、1つないしは2つのクローズドマイクを扱うことが可能です。これらはパンニングによってステレオ収録にも対応します。また、ダイナミックスピーカーモデリングでは、各クローズドマイクをオン軸スもしくはオフ軸スで配置できるため、非常に幅広いサウンドのバラエティと質を提供することに成功しています。

DYN 57

ダイナミック仕様の"57"マイクは、60年代後半からアメリカで定着したラウドギターアンブレコーディングの定番です。その理由はミックスの際に、EQをさほど必要としない点にあります。OXに装備されたモデルは70年代のビンテージユニットをベースにしています。自然な低域のロールオフと適度に強調された中高域が魅力です。

DYN 421

ダイナミック仕様の"421"は、60年代初期からヨーロッパで広く用いられた定番マイクです。"57"マイクよりも分厚い低域と滑らかな高域特性が魅力で、スムーズなディストーションサウンドに適しています。OXに装備されたモデルは1963年製のビンテージユニットをベースにしています。

RIB 160

"160"リボンマイクは、60年代後半にイギリスのレコーディングエンジニアがいくつかの素晴らしいロックアルバムのギターとドラムの収録に使用したことで知られています。OXに装備されたモデルは60年代のビンテージシルバーユニットをベースにしています。滑らかな中域と温かみのある高域が魅力です。

RIB 121

"121"はエレキギターの収録に適したモダンクラシックのリボンマイクです。シルキーな高域と開放感のある低域が魅力です。多くのエンジニアは"121"と"57"の組み合わせで収録に臨みますが、もちろん"121"のみでも十分なサウンドを得ることが可能です。スピーカーによっては、マイクチャンネルでローカットを使用する必要がある場合もあります。

CON 414

コンデンサー仕様の"414"は、クリアな高域とパンチのある低域の収録に最適なマイクです。最初から高低域をEQで持ち上げたような特性はモダンサウンドに最適です。スピーカーによっては、マイクチャンネルでローカットを使用する必要がある場合もあります。

CON 67

コンデンサー仕様の"67"は、60、70、80年代のヒットポップスやロックレコードで耳にするサウンドです。このチューブコンデンサーマイクは、広域ながら耳障り感もなく、ボトムが膨らみ過ぎることもありません。優しい中高域が歪んだリズムギターに最適です。

DIRECT

マイクを使用しないモードで、一般的なアンプにロードボックスを用いたレコーディングと同じ効果が得られます。

ルームマイクロフォン

OXのダイナミックルームモデリングのために6種のルームマイクが用意されています。ルームマイクはスタジオの部屋鳴り(アンビエンス)を捉え、クローズドマイクと混ぜることで、奥行き感と広がり、そして空気感を制御します。マイクロフォンの選択は、OXソフトウェアで行います。

RIBBON STEREO

収録部屋のドラムエリアに立てたりボンマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、温かみのある50年代や60年代のビンテージなセッション感が特徴です。DAMPをオンにした場合、バッフルとカーペットが中域を吸収し、速いレスポンスが得られます。

CONDENSER STEREO

収録部屋のドラムエリアに立てたチューブコンデンサーマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、クリアな高域と分厚い低域が魅力です。DAMPをオンにするとバッフルとカーペットがボトムエンドを引き締め、速いレスポンスを得られます。

CONDENSER MAN MONO

コントロールルームから見て収録部屋の左側に立てたチューブコンデンサーマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、パンチのある中域と分厚い低域が魅力です。DAMPをオンにした場合、バッフルとカーペットがボトムエンドを引き締め、中域の"暴れ"を抑えます。

CONDENSER 67 MONO

コントロールルームから見て収録部屋の右側に立てたチューブコンデンサーマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、滑らかな中域とアグレッシブな低域が魅力です。DAMPをオンにした場合、バッフルとカーペットが不要な低周波倍音を取り除きます。

RIBBON 84 MONO

オールドスクール感のあるリボンマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、少し暗めな高域特性と中域中心のサウンドが特徴です。DAMPをオンにした場合、バッフルとカーペットが中域を吸収し、高域の少し効いた速いレスポンスが得られます。

RIBBON 121 MONO

奥行きとパンチをもたらすモダンなりボンマイクです。"ライブ"モード(DAMPオフ)時は、滑らかな高域と広がりのある低域が特徴です。DAMPをオンにした場合、バッフルとカーペットが低域をタイトにし、速いレスポンスが得られます。



OXシステム概要

メモ:この章ではOXの全体的な概要について紹介します。各機能の詳細はそれぞれの章で紹介します。

OXは真空管ギターアンプのための、ロードボックス、パワーアッテネーター、そしてスピーカーキャビネット/マイクロフォン/ルームシミュレーターとエフェクトプロセッサが一体になったユニットです。本物の真空管アンプのサウンドをプロの手によって仕上げられたアルバムクオリティのサウンドとして提供するプロセッサです。

OXの入力はギターアンプのスピーカー出力と接続し、処理されたサウンドはラインレベルの信号として、様々なオーディオ機器に出力することができます。

主な特徴

- 真空管ギターアンプ専用のプレミアムアナログロードボックスとギターレコーディングシステム
- フロントパネルのRIGノブ操作だけで、様々なアルバムクオリティのサウンドに素早くアクセス
- そのままで「使える」サウンド。適切に配置されたマイクとキャビネット
- 5段階のパワーアッテネーション。サイレント動作からフル出力まで対応したスピーカー出力
- UA独自のダイナミックスピーカーモデリングによる、経年変化によるコーンクライ、ドライバーの特性など、スピーカーの忠実な再現
- Universal AudioによるワールドクラスのEQ、コンプレッサー、ディレイとリバーブを装備
- アンプの仕様に応じたインピーダンス切り替え:4/8/16Ω
- スピーカーや他のオーディオ装置なしに完璧なギタートーンで練習に励むことができるヘッドフォンモニター
- ステレオレコーディングのためのTRSバランスライン出力、S/PDIFデジタル出力
- PCやモバイルデバイスによるワイヤレスリモートコントロールを行うためのWi-Fi機能内蔵
- 専用アプリを経由したリモートコントロール、プリセット編集と保存
- ファンレスの静音設計

リアクティブロードボックス

OXは、真空管ギターアンプの出力をスピーカーの代わりに受けるロードボックスでもあります。OXのロード機能は、実際のスピーカーと同じ、アンプの出力に応じてインピーダンスが変化するリアクティブ仕様です。実際のスピーカーがアンプに接続されているかのようにギターのタッチやスピーカーの音色特性にアンプが反応します。

パワーアッテネーション

OXのロードボックスには、パワーアッテネーションが装備され、ギターアンプの高出力信号を下げてスピーカーに送ることが可能です。これにより音量を抑えつつアンプのパワー部をドライブさせることができるため、アンプサウンドの一番の旨味を引き出すのも役立ちます。スピーカーへの出力音量は、6段階のSPEAKER VOLUMEノブで調整します。

アンプにOXを接続した場合、ギタースピーカーの接続は必須ではありません。また、スピーカーを接続していても、SPEAKER VOLUMEを"0"に設定して、サイレントモードで扱うことが可能です。

メモ:OXのロードボックス機能は、アンプを保護するための機能が装備されています。電源をオフにした場合、OXは16Ωのロードボックスとして機能します。

ダイナミックモデリング

OXには、Universal Audioが開発した2つの先進テクノロジー：ダイナミックスピーカーモデリングとダイナミックルームモデリングが盛り込まれています。この2つの技術を組み合わせることで、忠実なシミュレーションが実現されます。

これは一般的なモデリング処理で用いられている静的なインパルスレスポンス (IR) とは異なり、ギタースピーカー、キャビネットマイク、レコーディングルーム、ルームマイクなどのダイナミックモデリングを構成する個々のコンポーネント全てが動的な関係性にあり、各コンポーネント内のどの要素がアクティブであるかによって、異なる反応を示します。

ダイナミックスピーカーモデリング

ギタースピーカー - 複雑でダイナミックなギタースピーカーキャビネットの特性を再現します。経年変化したスピーカーのへたりや鳴きなど、細かなニュアンスも再現します。OXには17種の、ビンテージやモダンタイプ、そして開封したての新品スピーカーとキャビットの組み合わせが用意されています。

キャビネットマイクロフォン - ギターアンプのサウンドを収録するマイクロフォンは、ポジションとマイクとキャビネットの相互作用による複雑なトーンを生み出します。OXでは、定番のハイエンドマイクロフォンを6種選ぶことが可能で、個々のキャビネットに対して、プロエンジニアによるベストポジションが厳選されています。また、マイクロフォンをパスしたDIボックスのサウンドオプションも用意されています。

ダイナミックスピーカーモデリングは、OXフロントパネルのRIGノブで、Rigプリセットとして選択可能です。Rigプリセットは、OXソフトウェアを通じてアクセス、エディット、保存が可能です。

ダイナミックルームモデリング

ダイナミックスピーカーモデリングに空気感、重量感、奥行きを加えます。ルームアンビエンスは、クランクアップした真空管アンプを優れた音響の部屋で演奏する際のフィーリングにおいて大きな要素となります。

OXは、ルームアンビエンス用に6つのハイエンドマイクオプションが用意されています。レコーディングスタジオの生々しい部屋鳴りを再現します。

ダイナミックルームモデリングのアンビエンス量は、OXフロントパネルのROOMノブで調整可能です。ROOM設定は、OXソフトウェアを通じてアクセス、エディット、保存可能です。

マスターエフェクト

OXには、Universal Audioが誇るスタジオクオリティのエフェクトが装備されています。4バンドEQ、1176 SEコンプレッサー、ステレオモジュレーションディレイ、ステレオプレートリバーブをダイナミックモデリング処理されたサウンドに加えることが可能です。これらのエフェクトは個々、あるいは同時に扱うことができます。また、マスターエフェクトとは別に、それぞれのマイクチャンネルにも4バンドのEQが装備されています。

マスターエフェクトはダイナミックモデリングの後段に位置します。このエフェクトはキャビネット/マイク/ルーム処理の前やスピーカー出力 (TO SPEAKER) に適用することはできません。

Rig

Rigとは、OXでアルバムクオリティのギタートーンを形成する設定 (プリセット) のことです。Rigそれぞれにダイナミックスピーカーモデリング、ダイナミックルームモデリングとマスターエフェクト設定が含まれています。OXフロントパネルのRIGノブでは設定された6つのRigプリセットを選ぶことが可能です。

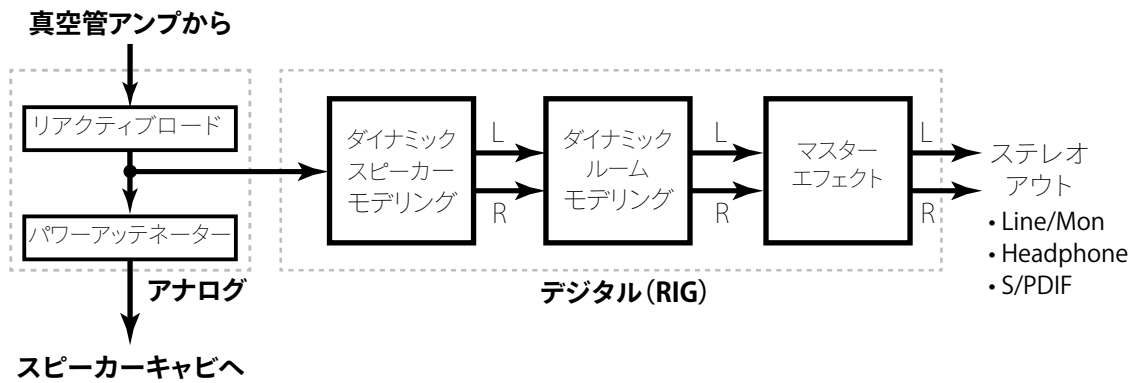
Rigセット

Rigセットは、OXのRIGノブに一括割り当てをする6つのRigの集まりです。OXは16のRigセットを含みます。RigセットをOX本体のRIGノブへ割り当てたりセット内のRigプリセットを選択するには、OXソフトウェアを使います。

信号の流れ

OXにはアナログとデジタル信号パスが存在します。リアクティブ・ロードとパワー・アッテネーション回路は純粋なアナログです。チューブ・アンプの出力はOXのリアクティブ・ロードとパワー・アッテネータに接続され、実際のギター・スピーカー・キャビネットに送られます。

ギターアンプのサウンドをラインレベルのアルバムサウンドに仕上げて送る、ダイナミックスピーカーモデリング、ダイナミックルームモデリング、UAマスターエフェクト部は、DSPによるデジタル回路を介して行われます。仕上げられたサウンドはライン、ヘッドフォン、デジタル出力にルーティングされ、モニタリングや録音が行われます。



OXの信号の流れ

出力

OXは必要な出力のみにケーブルを接続し、使用することができます。例えば、ギタースピーカーのみを接続し、LINE /MON、ヘッドフォン出力は使用しないことも可能です。逆にヘッドフォンのみを接続し、スピーカーを接続せず使用することも可能です。出力はすべて同時に使用できます。詳細は[コントロールと接続](#)の章をご覧ください。

アナログスピーカー出力

OXのスピーカー出力 (TO SPEAKER) は、デジタル処理されていないアナログロードボックスの信号出力です。これは真空管アンプの出力をOXで受け、内蔵のパワーアッテネーション回路を経て出力されます。つまり、ここからはOXに装備されたダイナミックスピーカーモデリング、ダイナミックルームモデリング、マスターエフェクトのデジタル処理は行われず、ピュアアナログのサウンドが出力されます。信号レベルも実際のスピーカーキャビネットをドライブする高出力のものであります。

DSP出力

LINE/MON、HEADPHONEのアナログ出力とS/PDIFデジタル出力は、OXのロードボックス回路を通った後にデジタル処理され、ラインレベルの信号でステレオ出力されます。

OXソフトウェア

OXソフトウェア/アプリは、OXハードウェアに秘められたパラメーターにフルアクセスするためのワイヤレスリモートコントローラーです。画面上のパラメーターや設定はすべてOXハードウェアの中身を反映しているものです。

OXはソフトウェアのワイヤレスリモートコントロールのために、Wi-Fiネットワーク機能を内蔵しています。OXソフトウェアは、OXの製品登録後に使用可能となります。

OXソフトウェアでは全てのRigパラメーターを駆使し、オリジナルのギタートーンとして保存することが可能です。100のファクトリーRigプリセットを含み、高いレベルで完成されたプリセットから発展させた自前のRigプリセットもユーザープリセットとして保存することが可能となっています。

また、OXソフトウェアを使用すれば、OX本体フロントパネルの6つのRIGノブスロットに異なるRigを簡単に割り当てることができ、アプリケーションなしでお気に入りのRigへのスタンドアロンアクセスを簡単に行えます。

詳細については、[OXソフトウェア](#)の章をご覧ください。



その他のリソース

Universal Audioではビデオやナレッジベースなど、ウェブを通じて様々な情報を公開しています。

ナレッジベース：<https://help.uaudio.com>

Youtubeサポートチャンネル：https://www.youtube.com/channel/UC0D0ABJ_HDBzifOvCaeKP5A

OXとWi-Fiネットワーク

OXはソフトウェアのワイヤレスリモートコントロールのためにWi-Fiネットワーク機能を内蔵しています。OXソフトウェアはOXの製品登録後に使用可能になります。OXソフトウェアを通じて、OXのRig、Rigセット、その他全てのOXの設定にフルアクセスすることができます。このリモートコントロールは、すべてWi-Fi経由で行われます。

OXソフトウェアをインストールしたデバイス (MacもしくはiPad) とOXをWi-Fiで接続するには2つの方法があります。OXのWi-Fiホットスポットと接続する方法、そしてOXとデバイスの両方を同じ外部Wi-Fiネットワークに接続する方法です。

OX Wi-Fi ホットスポット

OXのWi-Fiホットスポットは常に有効です。これによって、Wi-Fiネットワークのない環境でもOXを使用することが可能です。OXデフォルトのWi-Fiホットスポットネットワーク名 (SSID) とパスワードはOXのシリアル番号と共にリアパネルに貼られたラベルに印字されています。このホットスポット名とパスワードは、ユニットごとに異なります。

メモ: OXのホットスポット名とパスワードは、OXソフトウェアのSETTINGS画面で変更できます。

OXのWi-Fiホットスポットとデバイスを直接接続した場合、デバイスをインターネットに接続することはできなくなります。

OXのホットスポットと接続する

Mac/iPadのWi-Fiネットワーク設定を開き、OXリアパネルのラベルに印字されたホットスポットを選択し、パスワードを入力します。

メモ: Wi-Fi設定はデバイスのシステム設定で、OXソフトウェア/アプリの設定ではありません。

外部のWi-Fiネットワーク

OXとデバイスの両方を同じWi-Fiネットワークに接続することで、デバイスからのリモートコントロールとインターネット接続が可能になります。

メモ: OXソフトウェアを利用可能にするには、インターネットを通じた製品登録が必要です。そのため、必ず一度、OXとデバイスの両方を同じ外部のWi-Fiネットワークに接続する必要があります。

OXの外部Wi-Fiネットワーク接続

手順は、3ステップで行えます。詳細に関しては、[OXの登録](#)の項目の手順: ステップ2~4をご覧ください。

1. Mac/iPadのWi-Fi設定を開き、OXのホットスポットと接続します。
2. OXソフトウェアのSETTINGS画面で、OXを既存の外部Wi-Fiネットワークに接続します。
3. 再度、Mac/iPadのWiFi設定を開き、OXと同じ既存の外部WiFiネットワークに接続します。

これでこれまでと同じようにインターネット接続が可能になります。

製品仕様

OXの製品仕様は以下の通りです：

*予告なく変更する場合があります。

システム	
入出力端子	
アンプ入力	1 x 1/4"TS (高出力スピーカーレベル)
スピーカー出力	1 x 1/4"TS (高出力スピーカーレベル)
ライン出力	2 x 1/4"TRS バランス (1 x ステレオペア)
ヘッドフォン出力	1 x 1/4"ステレオ
デジタル出力	1 x RCA、1 x TOSLINK (S/PDIF形式、ミラー出力)
アナログ入出力	
アンプ入力 - FROM AMPLIFIRE	
コネクタタイプ	1/4"TSアンバランス
入力インピーダンス	4 / 8 / 16Ω (切り替え)
最大入力	150W RMS / 200W RMS ピーク
セーフティロード (電源オフ時)	16Ω
スピーカー出力	
コネクタタイプ	1/4"TSアンバランス
出力アッテネーション	6ステップ (dB) : 0 / 6 / 12 / 24 / 36 / ∞ (スピーカーオフ)
ライン出力 1/2	
コネクタタイプ	1/4"TRS バランス
ダイナミックレンジ	114.5 dB (A-weighted)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz、±0.1 dB
S/N比	114.0 dB (A-weighted)
高周波歪 (THD+N)	-110 dBFS @ -3dBFS
チャンネルセパレーション	129dB
出力インピーダンス	100 Ω
最大入力レベル	+20.2 dBu (バランス)
ステレオヘッドフォン出力	
コネクタタイプ	1/4"標準ステレオ
ダイナミックレンジ	113.0 dB (A-weighted)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz、±0.1 dB
S/N比	113.0 dB (A-weighted)
高周波歪 (THD+N)	-107 dBFS @ -3dBFS
最大出力	80mW @ 600 Ω
デジタル出力	
フォーマット	S/PDIF IEC958
コネクタタイプ	1x RCA (コアキシャル)、1x TOSLINK (オプティカル、JIS F05)
サンプリングレート	44.1kHz
ビットデプス	24bit
最大出力	80mW @ 600 Ω
電源	
電源供給	専用AC - DC/パワーサプライ、レベルVI準拠
AC入力コネクタ	IECオス
AC電源	100 ~ 240VAC、50/60Hz
DC出力コネクタ	XLR 4ピン (Neutrik P/N NC4MDM3-H)
DC電源	12 VDC ±5%、1.5A
最大消費電力	18W
動作温度範囲	0 ~ 40°C (32 ~ 104°F)
保管温度範囲	-40 ~ 80°C (-40 ~ 176°F)
湿度範囲	10 ~ 95%



OX AMP TOP BOX

コンプライアンス

FCC Part 15 for Class B digital device	EN 610003-3-3:2013	EN 3011489-17
ICES-003	EN 55103-2	KN 301489-1
VCCI-CISPR 32:2016	KN32	KN 301489-17
EN 55032	KN35	UL/cUL 60065
CIPSR 32:2012	CNS 13438	EN 60065
EN 61000-3-2:2014	EN 301489-1	EN 60065

本体

寸法

W x H x D	15.01" x 4.45" x 8.05" (突起物含まず / 38.13 x 11.29 x 20.45cm)
	15.01" x 5.45" x 9.05" (突起物、ゴム足含む / 38.13 x 13.84 x 22.96cm)
出荷サイズ	W x H x D = 20.75" x 12.94" x 11.31" (52.7 x 32.9 x 28.7cm)

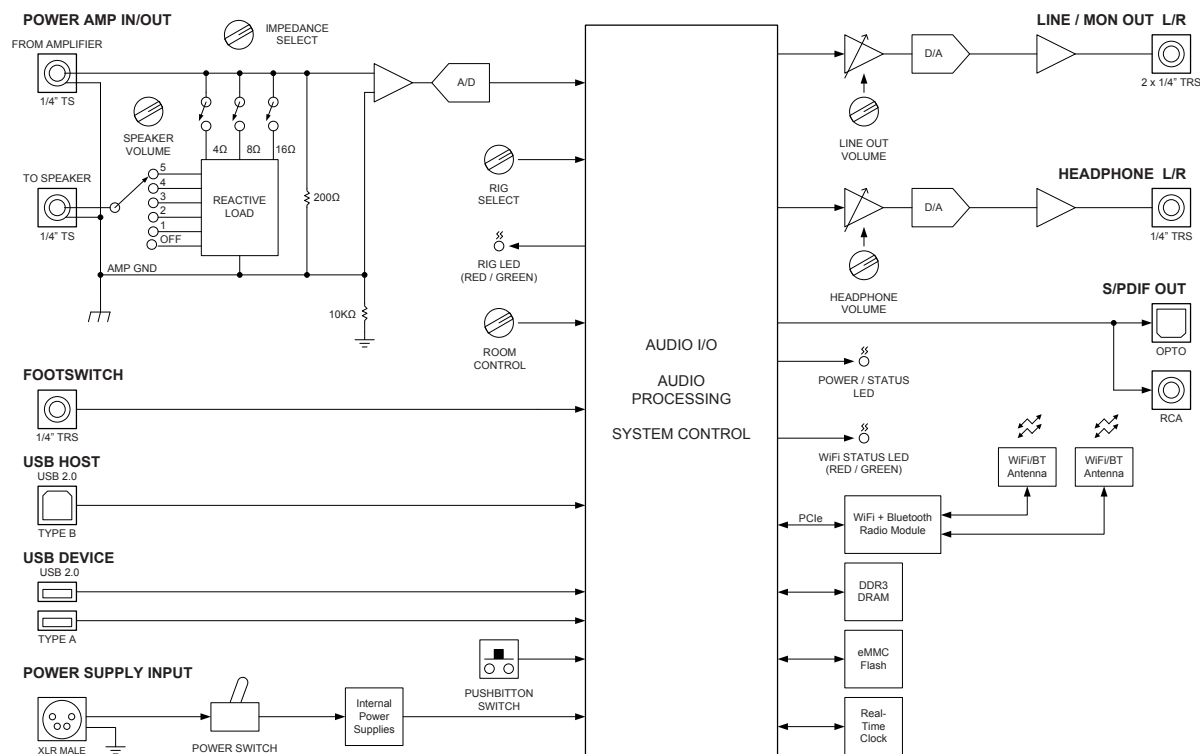
重量

本体重量	14.1 ポンド (6.40 kg)
------	--------------------

パッケージ同梱物

OX Amp Top Box本体
専用パワーサプライ
IEC電源ケーブル(ご利用地域に適合したものが1本)
クイックスタートガイド(英文)
RIGプリセットガイド(英文)
安全と規約に関するシート(英語)

ハードウェアブロック図



OX Amp Top Box ハードウェアブロック図

v18130

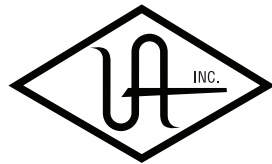
トラブルシューティング

この章ではトラブル解決のための症状確認および原因特定について解説します。

解決しない場合は、お手数ですが、弊社サポートまでご連絡下さい。

症状	確認項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● パワーサプライがしっかり差し込まれていることを確認します。 ● お手元に別のIECケーブルがある場合は、挿し替えて確認をします。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● アンプとOXの電源がオンになっていることを確認します。 ● アンプがスタンバイモードになっていないことを確認します。 ● アンプのスピーカー出力とOXのFROM AMPLIFIREがスピーカーケーブルで正しく接続されているかどうかを確認します。
モニターから音が出力されない	<ul style="list-style-type: none"> ● モニターシステムとの接続、電源状態、音量設定を確認します。 ● モニター音量が適切に上がっていることを確認します。 ● OXのLINE OUTが適切なレベルになっていることを確認します。
ヘッドフォンから音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● OXのヘッドフォンボリュームが適切に上がっていることを確認します。 ● 別のヘッドフォンで確認します。
デジタル出力から音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切なデジタルケーブルが使用されているかどうかを確認します。 ● 出力先の機器のサンプリングレートを44.1kHzに変更して確認します。 ● 出力先の機器のクロックソースをOXに変更して確認します。 ● 光デジタル接続の場合、出力先の機器のデジタルモードがadatではなく、S/PDIFになっていることを確認します。
ギターのスピーカーから音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● ギタースピーカーとOXのTO SPEAKERがスピーカーケーブルで正しく接続されているかどうかを確認します。 ● OXのSPEAKER VOLUMEが0になっていないことを確認します。
ソフトウェアとOXが繋がらない	<ul style="list-style-type: none"> ● OXのホットスポットとデバイスを接続し、OXのWi-Fi設定を確認します。 ● OXのホットスポットとパスワードを変更し、失念した場合は、以下の方法でリセットします。 <ol style="list-style-type: none"> 1. OXのUSBポートに何も接続されていないことを確認します。 2. OXが正常に起動していることを確認します。(RIG LEDが緑または黄色に点灯) 3. OXフロントパネルのRIG LEDが緑色に点滅するまで、リアパネルのRESETスイッチを約10秒間押します。 4. RIG LEDが消灯するまで、もう一度、RESETスイッチを約6秒押し、Wi-Fi設定の初期化を実行します。 5. RIG LEDが緑色で点灯後、OXのWi-Fi設定がリセットされ、リアパネルに印字されたホットスポット名とパスワードでアクセス可能になります。 <p>重要: Wi-Fi設定のリセットによって、変更したホットスポット名とパスワードが削除されます。</p>

症状	確認項目
工場出荷時の状態に戻したい	<p>● 以下の方法で、ファクトリーリセット (工場出荷時の状態に戻すこと) が可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OXのUSBポートに何も接続されていないことを確認します。 2. リアパネルの電源スイッチをオフにします。 3. RESETスイッチを押しながら電源をオンにし、そのままフロントパネルのRIG LEDが赤色で点滅するまで、約10秒間押します。 4. RIG LEDが消灯するまで、もう一度、RESETスイッチを約6秒押し、すべての設定の初期化を実行します。 5. RIG LEDが緑色で点灯後、OXの全設定が工場出荷時の状態になります。 <p>重要:ファクトリーリセットによって、全ての設定がデフォルトの状態に戻ります。すべてのユーザープリセット、変更したWi-Fiホットスポット名とパスワードが削除されます。</p>



UNIVERSAL AUDIO

HOOK UP, INC.